

# Cisco HyperFlex 2.6 HX Data Platform v1

最終更新日: 2017 年 12 月 13 日

## このデモンストレーションについて

このデモンストレーションでは、**HyperFlex 2.6 HX Data Platform** の機能の概要を示します。

この事前設定済みデモンストレーションのガイドには、次の内容が含まれています。

- [要件](#)
- [このソリューションについて](#)
- [トポロジ](#)
- [セッション ユーザ](#)
- [はじめに](#)
- [シナリオ 1: HyperFlex デモンストレーション環境](#)
- [シナリオ 2: HX クラスタのインストール\(クラスタ B\)](#)
- [シナリオ 3: HX クラスタのレプリケーション\(クラスタ A + クラスタ B\)](#)
- [シナリオ 4: HyperFlex との UCS Director の統合\(クラスタ A\)](#)
- [シナリオ 5: HyperFlex Connect による操作\(クラスタ A または B\)](#)
- [シナリオ 6: HyperFlex Plugin for vSphere による操作\(クラスタ A または B\)](#)

## 制限

この dCloud コンテンツでは実際の HyperFlex ハードウェアを使用しません。実際の HyperFlex ホストの動作や相互作用を再現するように設計された、ネストされた ESX HyperFlex ホストを使用します。

**重要:** 下記の問題は dCloud の問題であり、シスコ チームが積極的に解決に取り組んでいますが、HyperFlex の実稼働環境では発生しません。

- これらの HyperFlex シミュレータは dCloud インフラストラクチャ内の物理ホスト間で移行されることがあり、その場合は、IPv4 マルチキャストを使用する HyperFlex Manager のフローティング アドレスによる通信を妨げます。その結果、断続的なクラスタ作成の失敗や、クラスタ/ホストがオフラインになる問題が発生する可能性があります。

ワークステーション デスクトップの「Fix My Demo」スクリプトからオプション 1 または 2 を実行し、これらの問題が発生した場合はもう一度お試しください。

- このコンテンツは、ローカル ストレージの容量が限られた HX シミュレータをベースにしています。次のいずれかの操作を行うと、**ホストのスペースが不足**する可能性があります。
  - 含まれている VM ベース イメージ以外のものをプロビジョニングする。

- スクリプト内で、推奨される 10 個を超えたインスタンスを作成する。
- このデモンストレーションは、UCS Manager エミュレータをベースにしています。
- マルチキャストをサポートする dCloud インフラストラクチャの問題が解決されるまで、「HX クラスタの展開」シナリオはこのデモンストレーションから削除されています。

## 要件

次の表に、本デモンストレーションに必要な要件の概要を示します。

表 1. 要件

必須	オプション
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラップトップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco AnyConnect®</li> </ul>

## このソリューションについて

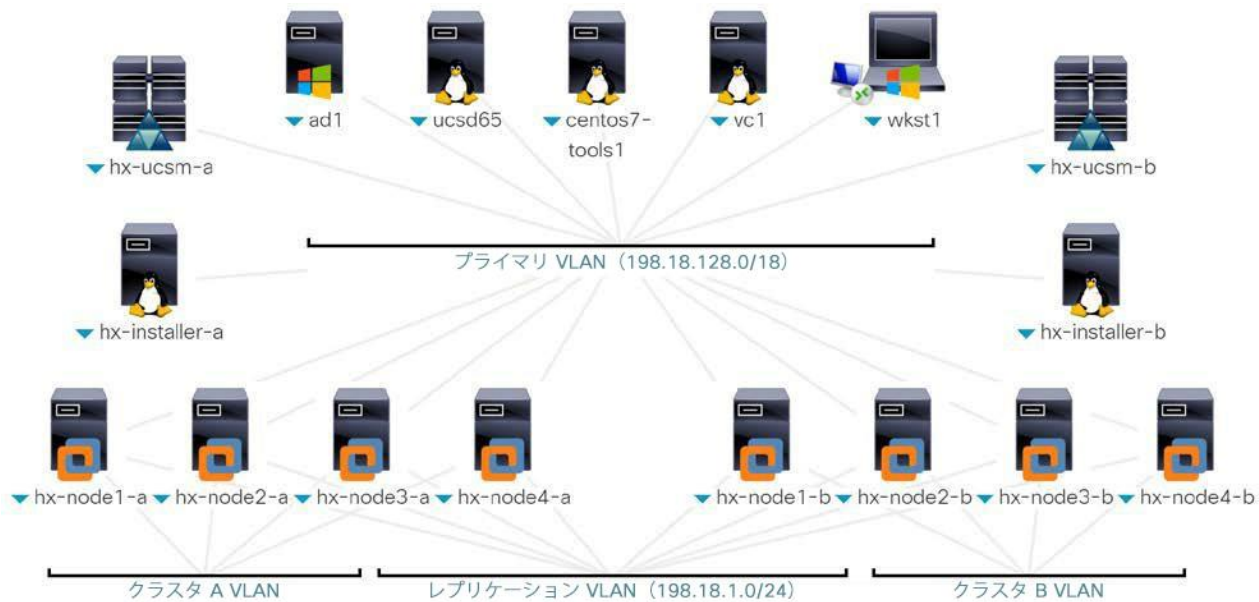
**Cisco HyperFlex™ Systems** は、包括的なデータセンター戦略の一環として、ハイパーコンバージェンス アーキテクチャ モデルを使用して、データ最適化、運用効率、適応性など、ビジネス上の基本的な課題を解決します。Cisco UCS® プラットフォーム上に構築されているため、組織の既存のスキルセットを活用して、統合されたネットワーク管理を実現できます。拡張性と適応性に優れ、包括的なハイパーコンバージェンスを実現しています。ネットワーク、コンピューティング、ストレージの 3 つのレイヤが単一のソリューションにインテリジェントに統合されているため、アプリケーション導入が迅速化されます。

Cisco HyperFlex Systems では、データ プラットフォームが 3 台以上の Cisco HyperFlex HX-Series ノードにわたって構築されているため、可用性の高いクラスタを実現できます。各ノードに搭載された Cisco HyperFlex HX Data Platform コントローラは、分散ファイル システムを実装し、フラッシュベースの内蔵 SSD ドライブと大容量 HDD を使用してデータを保存します。コントローラは 10 ギガビット イーサネット で相互に通信し、クラスタ内の複数のノードにわたる単一のストレージ プールを実現します。ノードはファイル、ブロック、オブジェクト、API プラグインを使用し、データレイヤを介してデータにアクセスします。ノードが追加されると、クラスタはそれに比例して拡張され、コンピューティング、ストレージ容量、I/O パフォーマンスを提供します。

## トポロジ

このコンテンツには、スクリプト形式のシナリオと、ソリューションの機能を実例で示すために事前設定されたユーザとコンポーネントが含まれています。コンポーネントのほとんどは、管理ユーザ アカウントを使用して任意の設定が可能です。コンポーネントへのアクセスに使用する IP アドレスとユーザ アカウント資格情報は、アクティブ セッションの [トポロジ (Topology)] メニューのコンポーネント アイコンをクリックして確認するか、それらを必要とするシナリオ内の手順で確認できます。

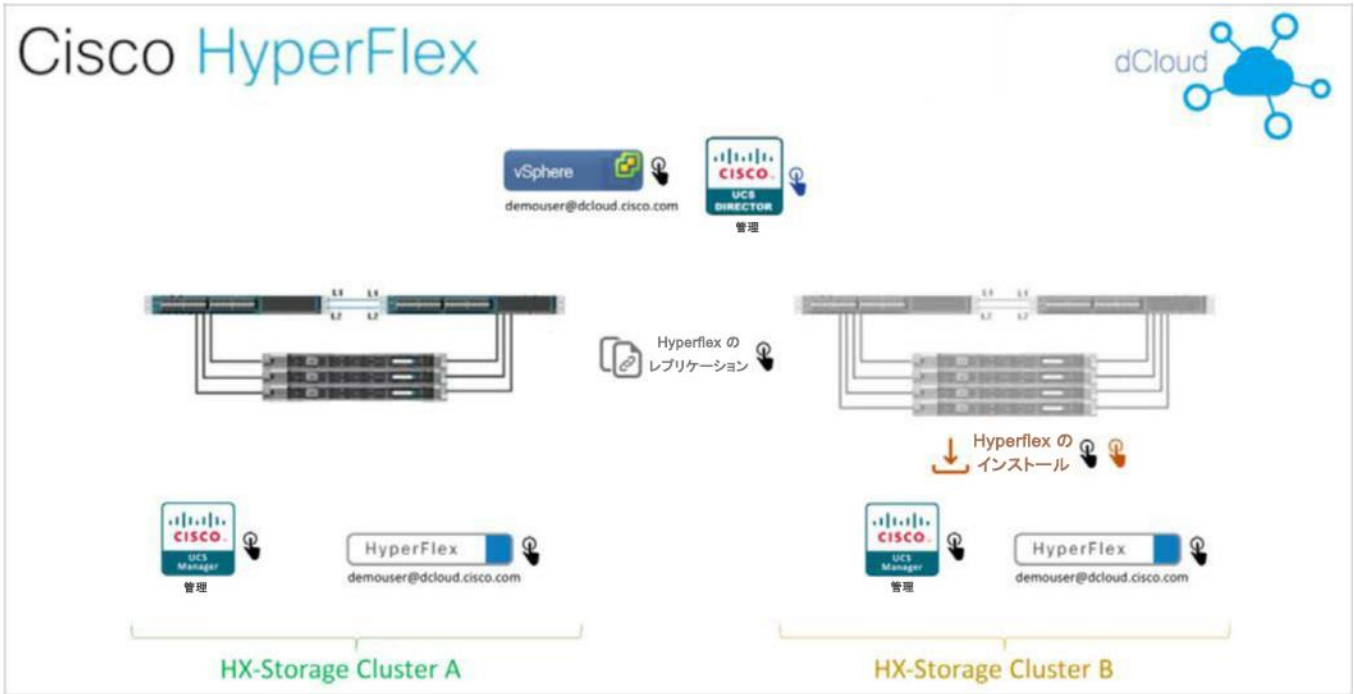
図 1. dCloud のトポロジ



この環境は、次の要素で構成されています。

- **HX-Storage Cluster A** はすでに作成されており、3つのノードがあります。
- **HX-Storage Cluster B** は作成されておらず、シナリオ 3 で HX クラスタのインストールのデモンストレーションを行うために使用します。
- 各クラスタには、**HX Connect** と **UCS Manager** の独自のインスタンスがあります。
- いずれのクラスタも、**UCS Director** の 1 つのインスタンスが管理します。この統合については、シナリオ 5 で説明します。
- いずれのクラスタも、**VMware vSphere** の 1 つのインスタンスが管理します。この統合については、シナリオ 7 で説明します。
- シナリオ 4 では、クラスタを結合して高可用性を確保するために [HyperFlex のレプリケーション (HyperFlex Replication)] ツールを使用します。

図 2. デモンストレーションのトポロジ



## はじめに

### プレゼンテーションの前に

Cisco dCloud では、実際の対象者の前でプレゼンテーションを行う前に、アクティブなセッションを使用して、このドキュメントのタスクを実施しておくことを強く推奨します。そうすることで、ドキュメントとコンテンツの構成に慣れることができます。

場合によっては、環境を元の構成にリセットするため、このガイドに従った後に新しいセッションをスケジュールする必要があります。

**プレゼンテーションを成功させるためには、入念な準備が不可欠です。**

次の手順に従ってコンテンツのセッションをスケジュールし、プレゼンテーション環境を設定します。

1. dCloud セッションを開始します。[\[手順を見る\]](#)

**注:**セッションがアクティブになるまで最長で 10 分かかることがあります。


2. 利用可能ないずれかの接続方法を使用して、ワークステーションに接続します。
  - **Cisco AnyConnect VPN** [\[手順を見る\]](#) とラップトップのローカル RDP クライアント [\[手順を見る\]](#) (ワークステーション 1: 198.18.133.36、ユーザ名: dCloud\demouser、パスワード: C1sco12345)
  - **Cisco dCloud Remote Desktop** クライアント [\[手順を見る\]](#)

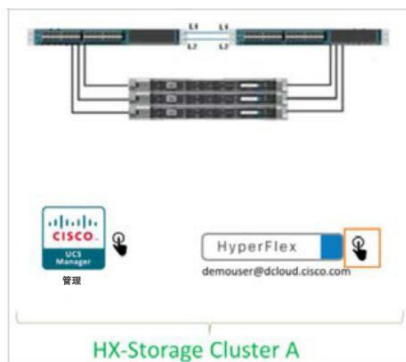
## シナリオ 1. HyperFlex デモンストレーション環境

このシナリオでは、デモンストレーション環境のセットアップ(「デモンストレーションの概要」セクションで説明)について学びます。

### 手順

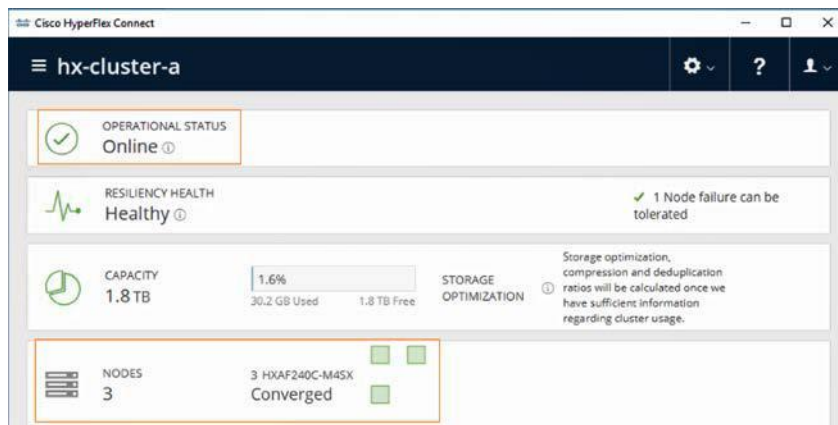
#### クラスタの設定 - クラスタ A


- ワークステーション デスクトップの [HyperFlex デモンストレーション (HyperFlex Demo)]  ショートカットをダブルクリックして、**Cisco HyperFlex** トポロジ ページを開きます。
- HX-Storage Cluster A** の [HyperFlex] アイコンの横にあるポインタをクリックして、クラスタ A のダッシュボードに接続します。ポップアップで [OK] をクリックします。

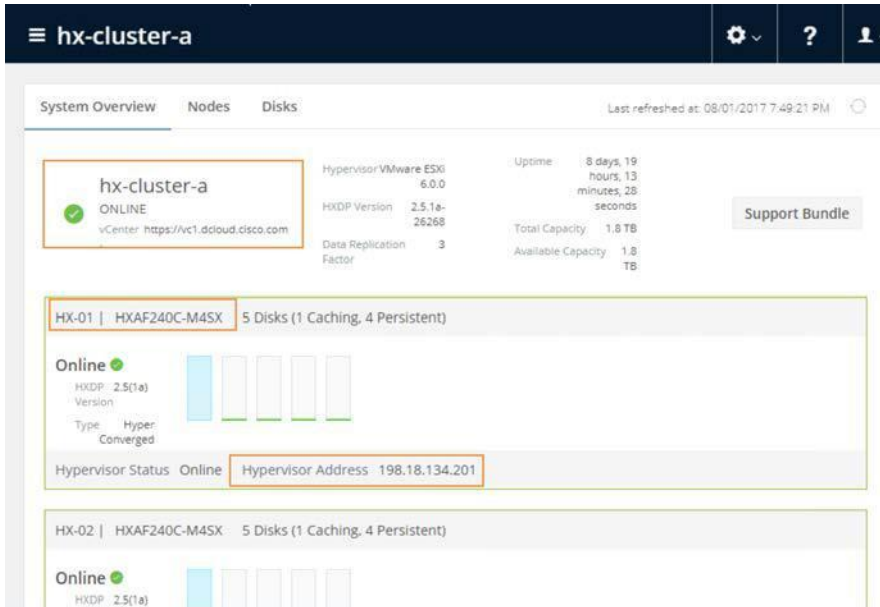



**注:**ポインタをクリックしてトポロジからアプリケーションを開くと、ログイン クレデンシャルが自動的にクリップボードにコピーされます。

- クレデンシャルを [ユーザ名 (Username)] フィールドに貼り付けて (**demouser@dcloud.cisco.com**)、[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、**Cisco HyperFlex Connector** アプリケーションにログインします。
- クラスタ A** はすでに作成されており、3 つのノードがあります。[操作ステータス (Operational Status)] と [ストレージ容量 (Storage Capacity)] を表示します。



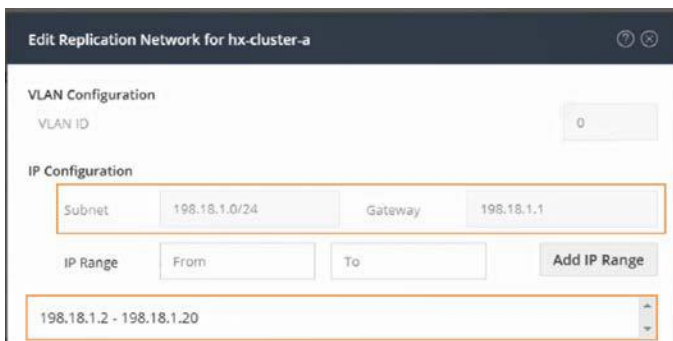
- メニュー バー  をクリックして、表示されたメニューから [システム情報 (System Information)] を選択します。
- 表示されたウィンドウで、下にスクロールしてクラスタ内の VM、ハイパーバイザ IP アドレス、ステータス インジケータを表示します。



- メニュー アイコン  をクリックして、表示されるメニューで [レプリケーション (Replication)] を選択します。
- [レプリケーション ペアの作成 (Create Replication Pair)] ボタンが表示されているということは、レプリケーション ペアが作成されていないということです。シナリオ 4 でレプリケーション ペアを作成します。[編集 (Edit)] ボタンをクリックして、クラスタ レプリケーションの現在のネットワーク設定を表示します。




- [クラスタ レプリケーションのネットワーク (Cluster Replication Network)] 設定を表示します。



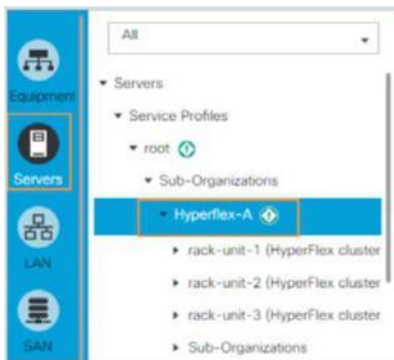
- [キャンセル (Cancel)] をクリックして、[編集 (Edit)] ウィンドウを閉じます。

## クラスタの設定 – UCS Manager と vSphere

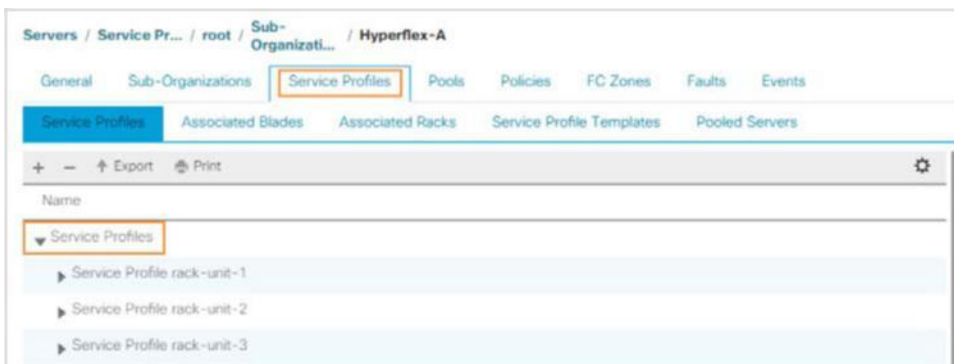
1. トポロジ マップに戻り、[UCS Manager] ショートカットの横にあるポインタ アイコン  をクリックします。ポップアップで [OK] をクリックします。




2. [ユーザ名 (User Name)] フィールドにクリップボードからクレデンシャルを貼り付けます (**admin**)。[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。
3. サイド メニューで [サーバ (Servers)] をクリックします。
4. [サービス プロファイル (Service Profiles)] > [root] > [サブ組織 (Sub-Organizations)] > [Hyperflex-A] の順に展開します。  
[Hyperflex-A] をクリックして、HX-Storage Cluster A の物理構成を表示します。

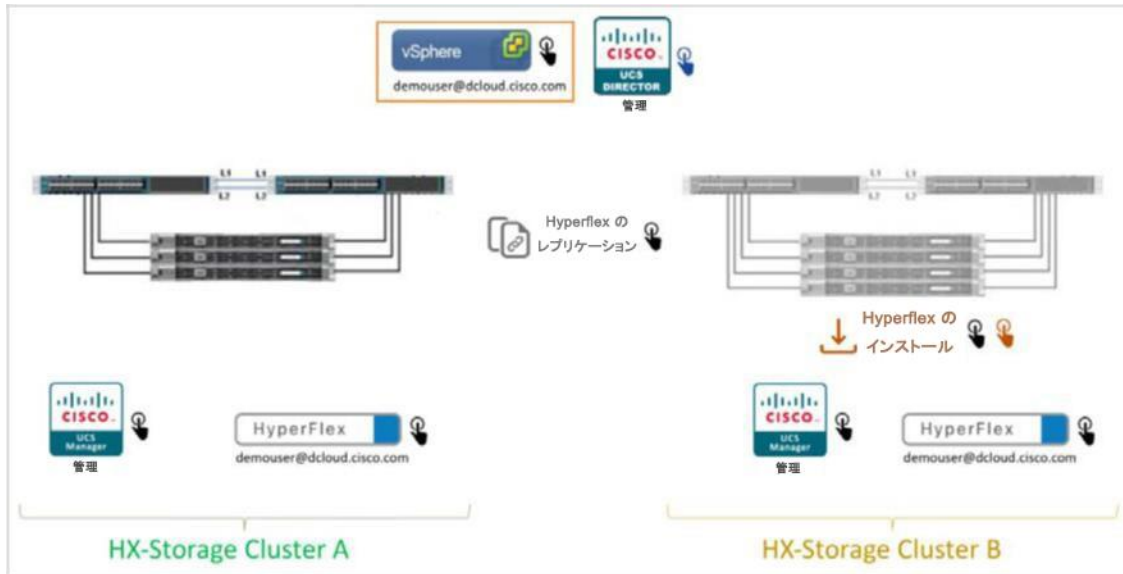


5. [サービス プロファイル (Service Profiles)] タブをクリックして、ラック ユニットに関連付けられたサービス プロファイルを表示します。  
(場合によっては、[サービス プロファイル (Service Profiles)] の横にある矢印をクリックして選択項目を展開する必要があります)



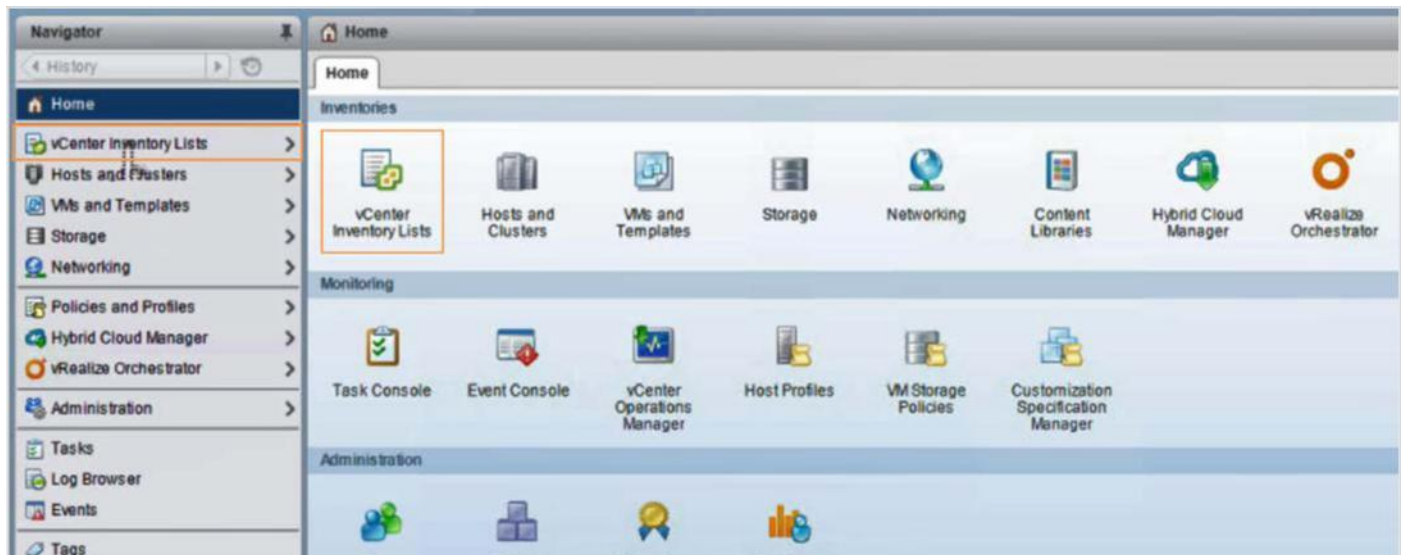


6. トポロジ ページに戻り、図の上部にある [vSphere] ショートカットの横にあるポインタ アイコン  をクリックします。ポップアップで [OK] をクリックします。

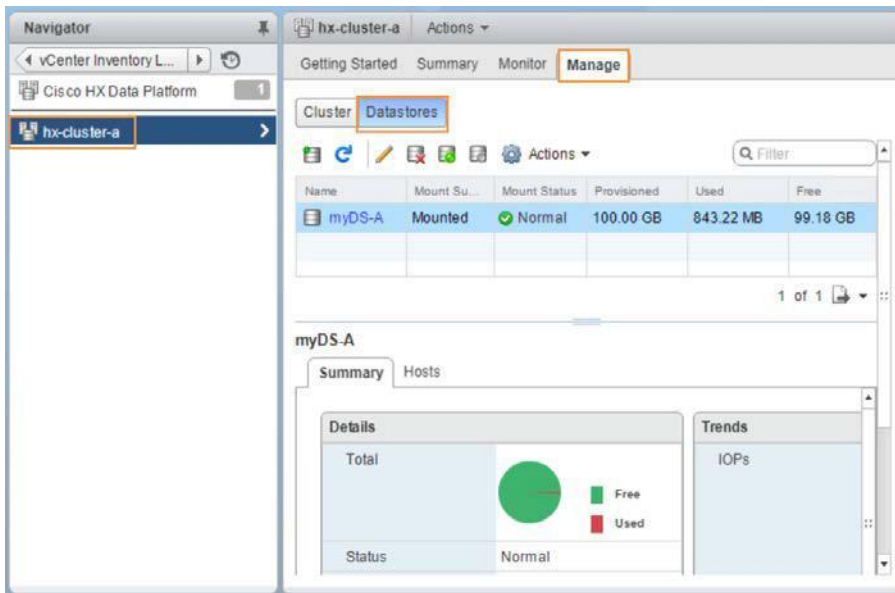


7. [Windows セッション認証を使用する(Use Windows session authentication)] チェックボックスをクリックして、[ログイン(Login)] をクリックします。

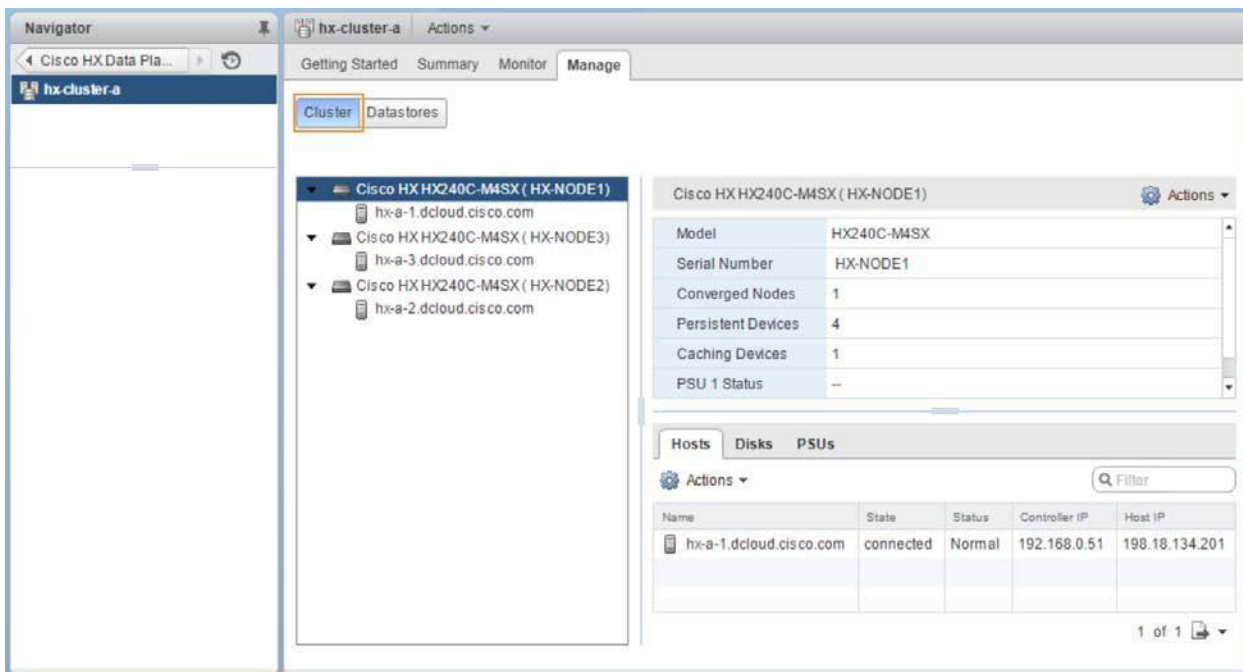
8. [vCenter インベントリリスト(vCenter Inventory Lists)] をクリックして、インベントリ メニューを表示します。




9. 左側のメニューを下にスクロールして、[Cisco HyperFlex Systems] を展開し、[Cisco HX Data Platform] をクリックします。
10. [hx-cluster-a] を選択します。
11. [管理(Manage)] タブをクリックします。
12. [データストア(Datastores)] をクリックすると、プロビジョニングされた容量、使用可能な容量、**myDS-A**(唯一のデータストア)の IOP が表示されます。

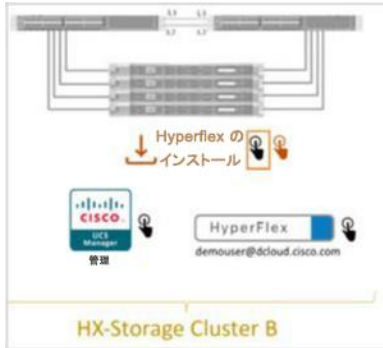


13. [クラスタ(Cluster)] をクリックすると、デモ開始時に設定済みで使用可能なインフラストラクチャが表示されます。



## クラスタの設定 – クラスタ B

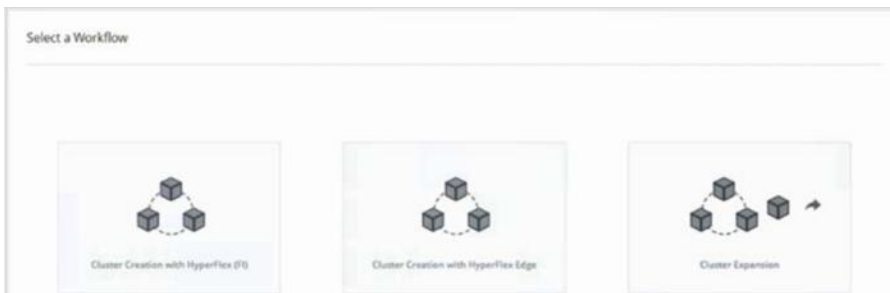
1. トポロジ ページに戻り、HX-Storage Cluster B の [HyperFlex のインストール(HyperFlex Installation)] の横にあるポインタ  をクリックします。




2. ユーザ名がクリップボードにコピーされます。ユーザ名をユーザ名フィールドに貼り付けて、パスワード フィールドに **C1sco12345** と入力します。[これらの条項に同意します (I accept the terms and conditions)] チェックボックスをクリックします。[ログイン (Login)] をクリックします。



3. [Cisco HX Data Platform インストーラ(Cisco HX Data Platform Installer)] ではクラスタを作成および展開するための複数のオプションが使用できますが、現時点ではクラスタの作成や展開は行いません。(クラスタの拡張はシナリオ 2 で扱います)




4. トポロジに戻り、[HyperFlex のインストール (HyperFlex Installation)] の横にある赤いポインタ  をクリックすると、HX クラスターのインストール シナリオ中にスクリプトを使用してクラスタ B をバックグラウンドで作成できるオプションが表示されます。

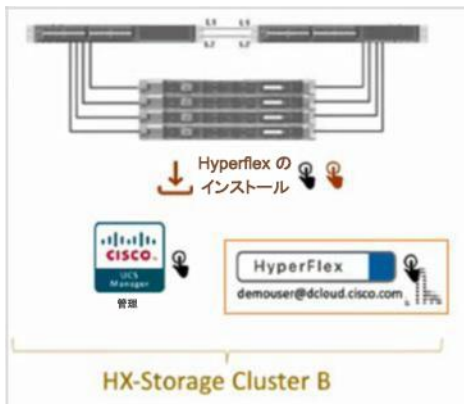
```
Administrator: HX-Cluster creation ...
      888  .d8888b. 888      888
      888 d88P  Y88b 888  In-demo automation 888
      888 888   888 888      888
      .d88888 888      888 .d88b. 888 888 .d88888
      d88" 888 888      888 d88"88b 888 888 d88" 888
      888 888 888      888 888 888 888 888 888 888
      Y88b 888 Y88b d88P 888 Y88..88P Y88b 888 Y88b 888
      "Y88888 "Y8888P" 888 "Y88P" "Y88888 "Y88888

      HX Cluster Creation Progress

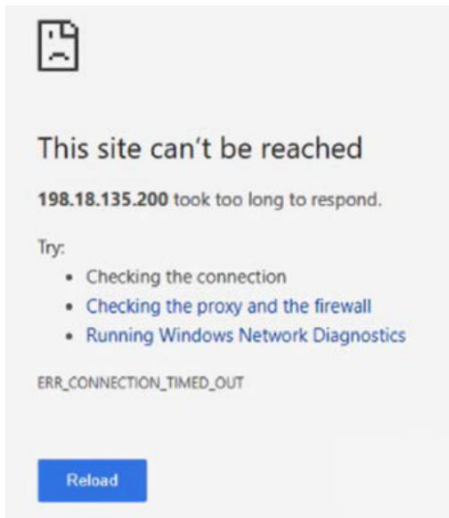
      UCSM Configuration.....[pending]
      vCenter Cluster Creation.....[pending]
      HX Cluster Creation.....[pending]


      This script will start unattended creation of HX Cluster B.
      Do you want to continue [y/n]?:
```

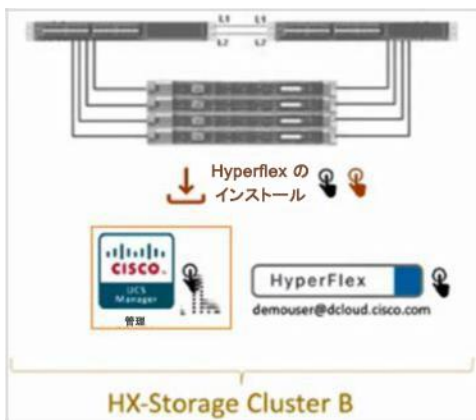
5. **y** や **n** を入力せずにウィンドウを閉じます。
6. トポロジ マップで、HX-Storage Cluster B の [HyperFlex] の横にあるポインタ アイコン  をクリックします。



7. HX-Storage Cluster B が未設定のためのエラー メッセージが表示されることを確認します。

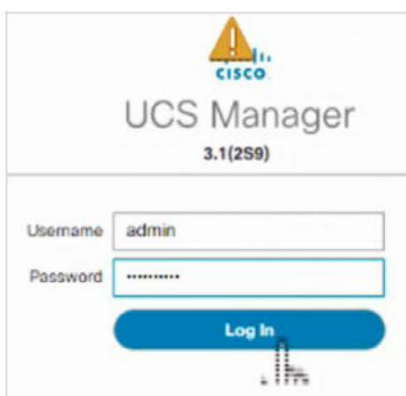


8. クラスタ B の [Cisco UCS Manager] の横にあるポインタ アイコン  をクリックします。



9. ユーザ名 (**admin**) がクリップボードにコピーされます。ユーザ名を [ユーザ名 (Username)] フィールドにコピーして、[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力します。[ログイン (Log In)] をクリックします。

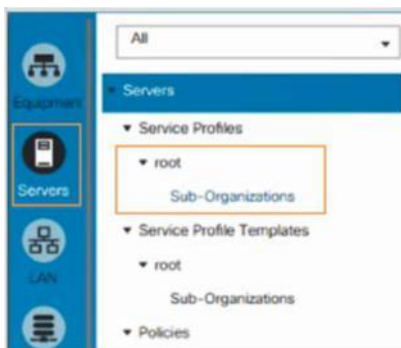
**注:** このデモンストレーション環境では、[匿名レポート (Anonymous Reporting)] ポップアップは重要ではありません。[はい (Yes)] または [いいえ (No)] をクリックします。




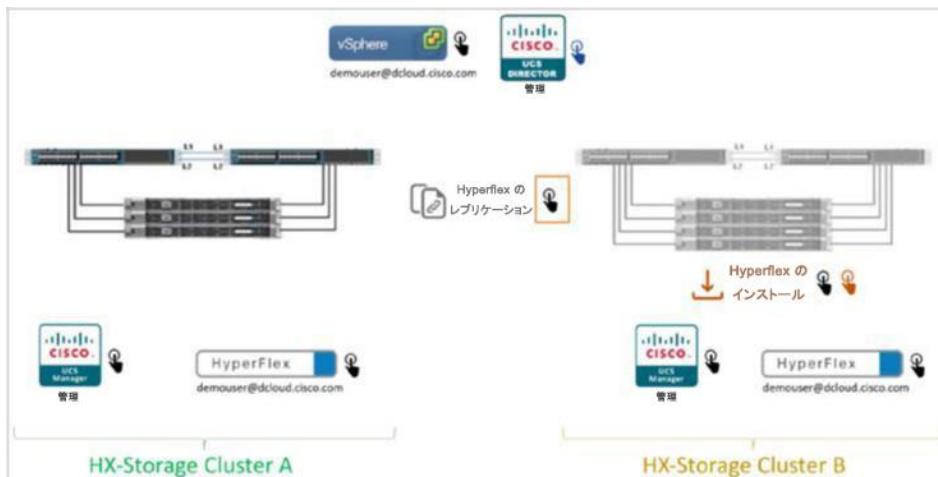
10. [機器(Equipment)] ウィンドウに、4つのサーバが存在することが表示されます。




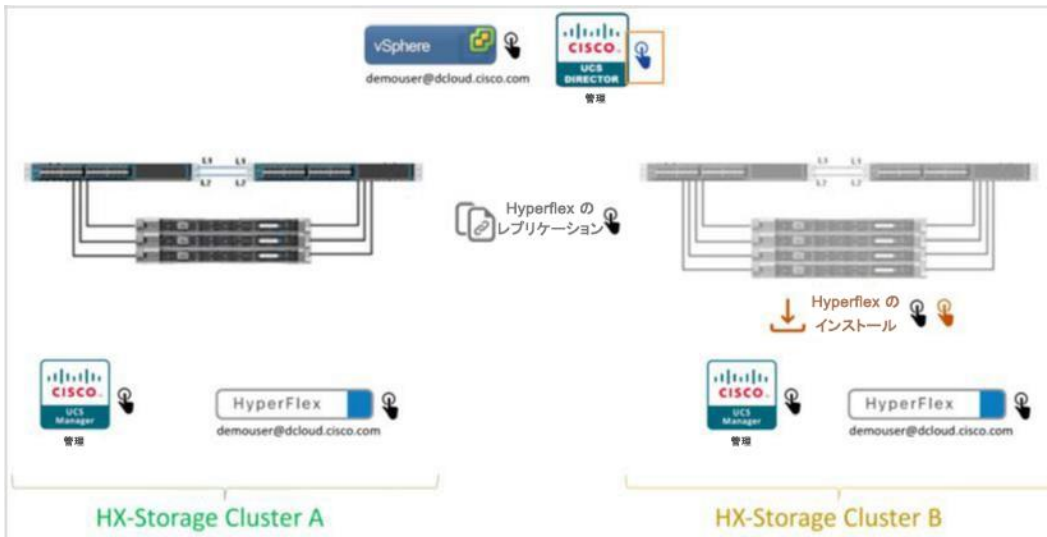
11. サイドメニューの [サーバ(Servers)] をクリックすると、サーバ上に構成が存在しないことが表示されます。これは、クラスタ B がインストールされると設定されます。



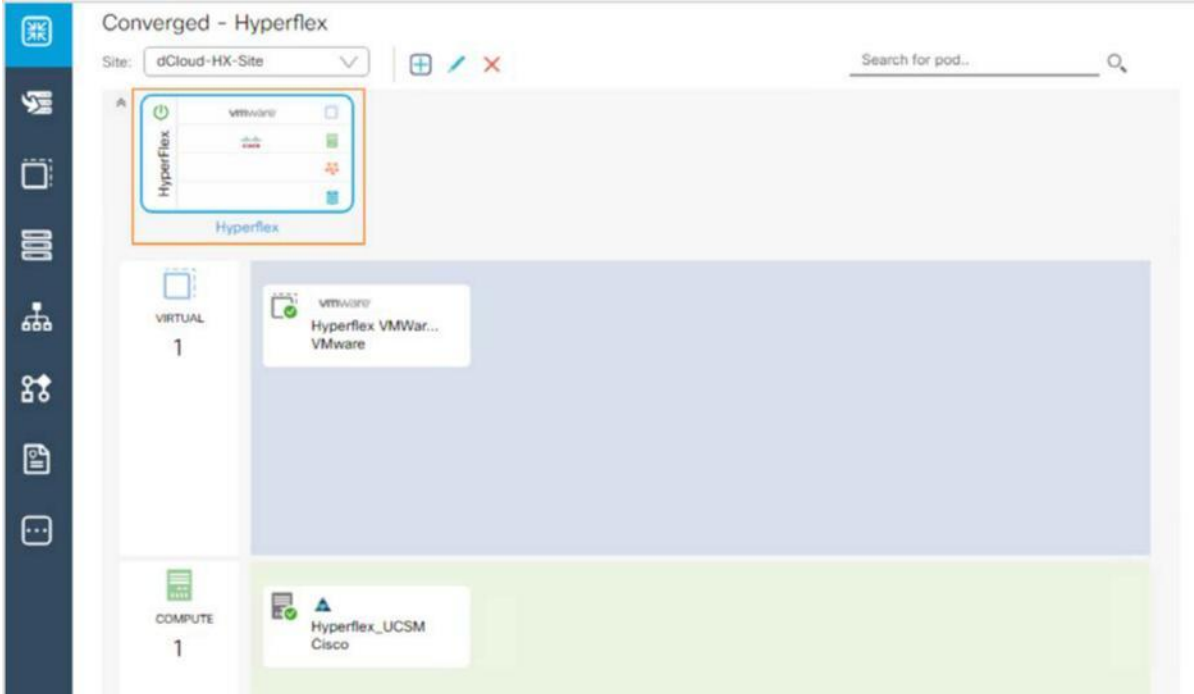
12. トポロジ マップに戻り、[HyperFlex のレプリケーション(HyperFlex Replication)] の横にあるポインタアイコン  をクリックして、クラスタ A とクラスタ B 両方の [HyperFlex Connect] ウィンドウを開きます。(クラスタ B は作成されていないため、クラスタ B の [HyperFlex Connect] ウィンドウではエラーが表示されます)。



13. [UCS Director] の横にある青色のポインタアイコン  をクリックします。



14. ユーザ名 (**admin**) がクリップボードにコピーされるので、ユーザ名フィールドに貼り付けます。[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、[ログイン (Log In)] をクリックします。
15. [HyperFlex] をクリックして、**UCS Director** がすでに **UCS Manager** と、**vSphere** の既存のクラスタに接続されていることを確認します。



16. [HyperFlex デモ(HyperFlex Demo)] ウィンドウ以外の開いているすべてのウィンドウを閉じて、シナリオ 2 に進みます。



## シナリオ 2. HX クラスターのインストール(クラスター B)


このシナリオの目的は、Cisco HyperFlex HX Platform インストーラを使用して、4つのノードを持つ HyperFlex クラスターを作成することです。

クラスターの作成には次の2つの方法があります。


- [インタラクティブな方法](#): HyperFlex インストーラを使用して、管理パスワードと特定の設定パラメータを入力し、クラスターを作成します。
- [簡単な方法](#): バックグラウンド ユーティリティを使用して、ユーザの操作なしにクラスターを作成します。
- クラスターを作成した後は、検証の手順を実行します。

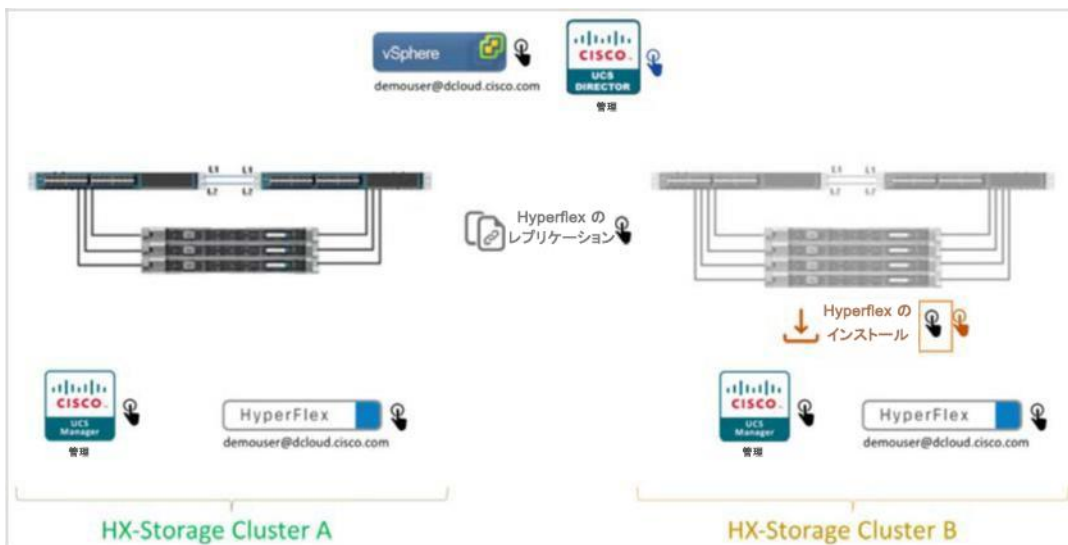
### 手順

1. HyperFlex デモンストレーション インターフェイスをまだ開いていない場合は、ワークステーション デスクトップの [HyperFlex デモ

(HyperFlex Demo)] ショートカット  をダブルクリックして、HyperFlex デモンストレーション インターフェイスを開きます。

#### クラスターのインストール: インタラクティブな方法

1. HyperFlex デモンストレーション インターフェイス ページで、**HX-Storage Cluster B** の [HyperFlex のインストール(HyperFlex Installation)] の横にあるポインタ  をクリックします。

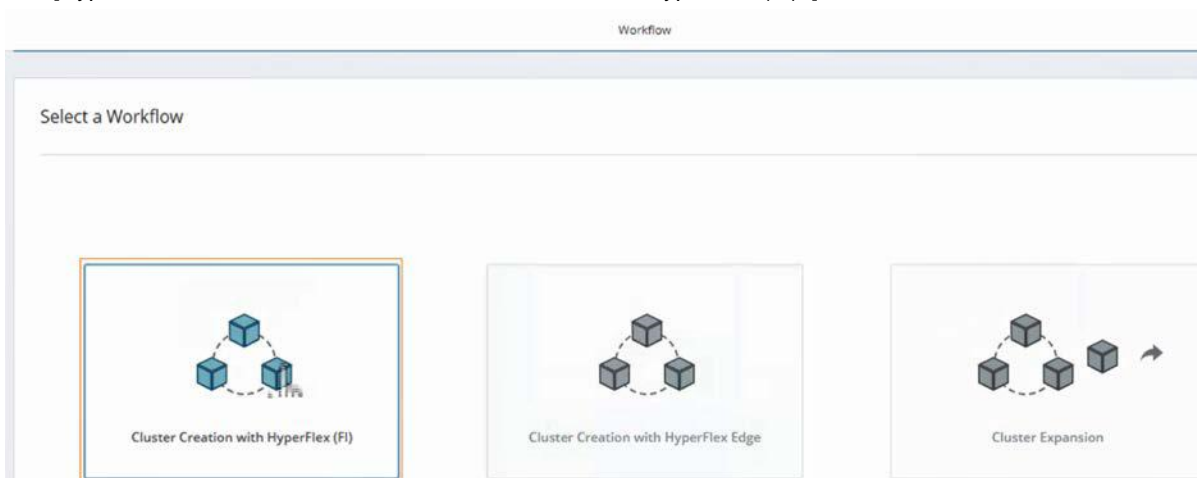


2. デモンストレーション用クレデンシャルを [ユーザ名 (Username)] に貼り付けて、[パスワード (password)] フィールドに **C1sco12345** と入力します。[これらの条項に同意します (I accept the terms and conditions)] チェックボックスをクリックし、[ログイン (Login)] をクリックします。



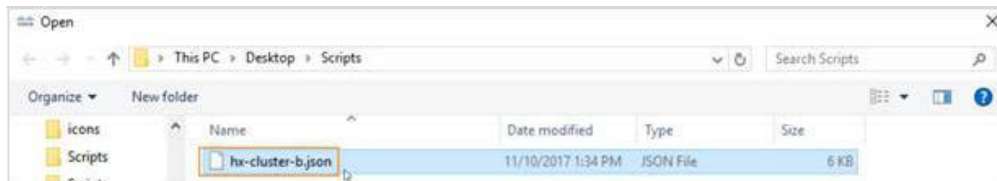


3. [HyperFlex(FI)によるクラスタ作成 (Cluster Creation with HyperFlex (FI))] をクリックします。



4. [ファイルの選択 (Select a File)] をクリックします。

5. 表示されたウィンドウで、[hx-cluster-b.json] をダブルクリックします。このファイルには、クラスタの作成に使用される設定情報が含まれています。



6. [設定の使用 (Use Configuration)] をクリックしてから、[UCS Manager のパスワード (UCS Manager Password)] (**C1sco12345**)、[vSphere の管理パスワード (vSphere Admin Password)] (**C1sco12345**)、[管理ユーザ名 (Admin User Name)] および [管理パスワード (Admin Password)] (**root/C1sco12345**) を次の図のように追加します。

7. 表示された画面で [続行 (Continue)] をクリックします。
8. エラーメッセージが表示された場合は、[インポートされた値を保持 (Keep Imported Values)] をクリックします。

### Overwrite Imported Values

⚠ There are discovered values from UCS Manager that differ from your imported configuration. Would you like to use these values?

Field	Imported	Discovered
ucsm.macpool.prefix	00:25:B5:0B	00:25:B5:

Keep Imported Values
Use Discovered Values

9. 4 つすべてのサーバが選択されていることを確認し、[続行 (Continue)] をクリックします。

### Server Selection

Configure Server Ports Refresh

Unassociated (4) Associated (0)

	Server Name	Status	Model	Serial	Assoc State	Actions
<input checked="" type="checkbox"/>	Server 1	unassociated	HX240C-M4SX	RK51	none	Actions
<input checked="" type="checkbox"/>	Server 2	unassociated	HX240C-M4SX	RK55	none	Actions
<input checked="" type="checkbox"/>	Server 3	unassociated	HX240C-M4SX	RK56	none	Actions
<input checked="" type="checkbox"/>	Server 4	unassociated	HX240C-M4SX	RK57	none	Actions

### Configuration

**Credentials**

UCS Manager Host Name: ucsm2.dcloud.cisco.com

User Name: admin

vCenter Server: vcl.dcloud.cisco.com

User Name: demouser@dcloud.cisco.com

Admin User Name: root

< Back
Continue

10. [VLAN 設定 (VLAN Configuration)] 画面で変更を加えずに [続行 (Continue)] をクリックします。

### VLAN Configuration

**VLAN for Hypervisor and HyperFlex management**

VLAN Name: hv-inband-mgmt | VLAN ID: 3091

VLAN for VM vMotion

VLAN Name: hv-vmotion | VLAN ID: 3093

**MAC Pool**

MAC Pool Prefix: 00:25:B5:0B

**VLAN for HyperFlex storage traffic**

VLAN Name: hv-storage-data | VLAN ID: 3092

VLAN for VM Network

VLAN Name: vm-network | VLAN ID(s): 3094

### Configuration

**Credentials**

UCS Manager Host Name: ucsm2.dcloud.cisco.com

User Name: admin

vCenter Server: vcl.dcloud.cisco.com

User Name: demouser@dcloud.cisco.com

Admin User Name: root

**Server Selection**

Server 2: RK55 / HX240C-M4SX

Server 3: RK56 / HX240C-M4SX

Server 1: RK51 / HX240C-M4SX

< Back
Continue

11. [共通 Hypervisor 設定の設定 (Configure common Hypervisor Settings)] 画面で変更を加えずに [続行 (Continue)] をクリックします。

12. IP アドレスが次のように設定されていることを確認し、[続行 (Continue)] をクリックします。

13. [管理パスワード (Admin Password)] フィールドと [管理パスワードの確認 (Confirm Admin Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、[開始 (Start)] をクリックします。

Cisco HX Cluster

Cluster Name:  Replication Factor:

Controller VM

Create Admin Password:  Confirm Admin Password:

vCenter Configuration

vCenter Datacenter Name:  vCenter Cluster Name:

System Services

DNS Server(s):  NTP Server(s):  Time Zone:

Auto Support

Configuration

Credentials

UCS Manager Host Name:  User Name:  vCenter Server:  User Name:  Admin User Name:

Server Selection

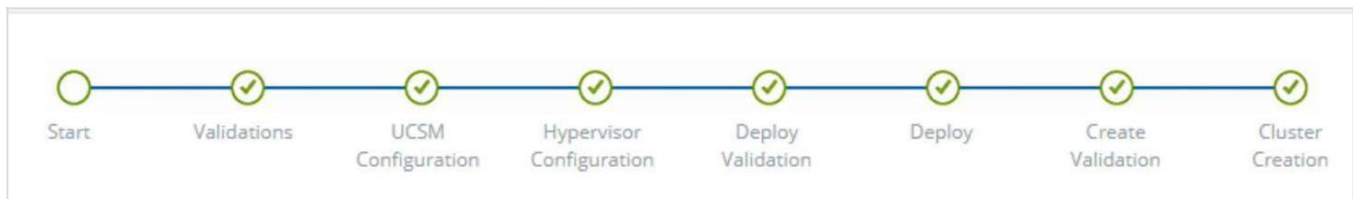
Server 2:  Server 3:  Server 1:  Server 4:

UCSM Configuration

VLAN Name:  VLAN ID:  VLAN Name:  VLAN ID:

14. 完了するまでクラスタのインストールの進捗状況を見守ります。これには約 20 分かかります。

注: クラスタの展開中にエラーが発生した場合は、[再試行(Retry)] を選択します。




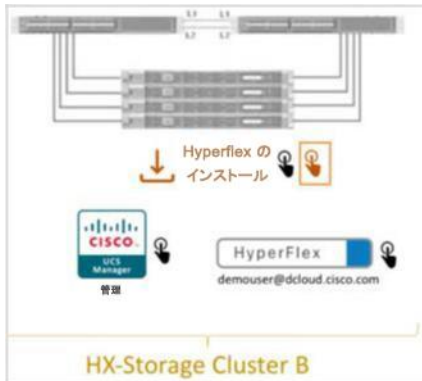
15. システムにより自動的に [サマリー(Summary)] ページにリダイレクトされます。

Cluster Name hx-cluster-b		ONLINE	HEALTHY
Version	2.5.1a-26268		
Cluster Management IP Address	198.18.135.200		
Cluster Data IP Address	192.168.0.100		
Replication Factor	3		
Available Capacity	2.5 TB		
vCenter Server			vc1.dcloud.cisco.com
vCenter Datacenter Name			dCloud-HX-DC-B
vCenter Cluster Name			hx-cluster-b
DNS Server(s)			198.18.133.1
NTP Server(s)			198.18.128.1

16. [クラスタの検証](#)に進みます。

## クラスターのインストール: シンプルな方法

- HyperFlex デモンストレーション インターフェイス ページで、**HX-Storage Cluster B** の [HyperFlex のインストール (HyperFlex Installation)] の横にある **赤いポインタ**  をクリックします。



- [続行しますか? [y/n]: (Do you want to continue [y/n]?:)] プロンプトで **y** と入力して **Enter** を押し、クラスターのインストールを開始します。これには 10 ~ 15 分かかります。

**注:** Enter を 2 回以上押す必要がある場合もあります。

```
Administrator: HX-Cluster creation ...
888 .d8888b. 888      DCV      888
888 d88P  Y88b 888  in-demo automation 888
888 888  888 888      888
.d88888 888      888 .d88b. 888 888 .d88888
d88" 888 888      888 d88"88b 888 888 d88" 888
888 888 888      888 888 888 888 888 888 888
Y88b 888 Y88b d88P 888 Y88..88P Y88b 888 Y88b 888
"Y88888 "Y8888P" 888 "Y88P" "Y88888 "Y88888

HX Cluster Creation Progress

UCSM Configuration.....[pending]
vCenter Cluster Creation.....[pending]
HX Cluster Creation.....[pending]

This script will start unattended creation of HX Cluster B.
Do you want to continue [y/n]?y_
```


- デモンストレーションに進む前に、確認メッセージが表示されるのを待ちます。

```
The HX Cluster Creation is ready!
Please proceed with the Demo.
Press any key to continue . . . _
```

- [クラスターの検証](#)に進みます。

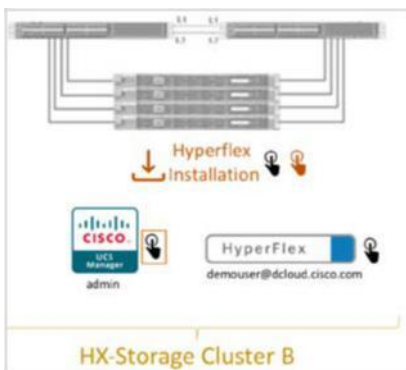
## クラスタの検証

このセクションの操作は、いずれのクラスタ作成方法を使用した場合でも必要になります。

1. HyperFlex デモンストレーション統合ページで、[vSphere] の横にあるポインタ アイコン  をクリックして、**vSphere** を開きます。
2. [Windows セッションのクレデンシャルを使用する(Use Windows session credentials)] チェックボックスをオンにして、ログインします。
3. [ホストおよびクラスタ(Hosts and Clusters)] をクリックします。
4. [vc1.dcloud.cisco.com] > [dCloud-HX-DC-B] > [hx-cluster-b] の順に展開して、クラスタがオンラインになるのを確認します。

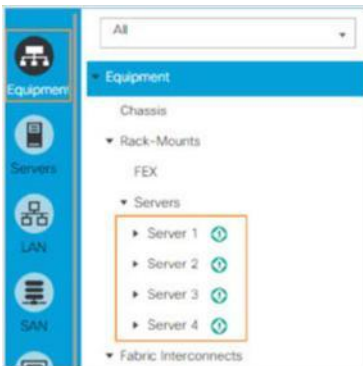


5. [HyperFlex インターフェイス(HyperFlex Interface)] ページに戻ります。
6. HX-Storage Cluster B の [UCS Manager] の横にあるポインタをクリックして、UCS Manager を開きます。クレデンシャルを [ユーザ名(User Name)] フィールドに貼り付けて、[パスワード(Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力してログインします。

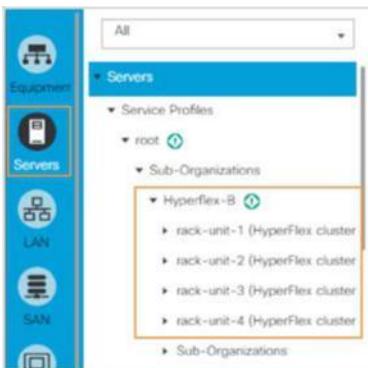


7. ポップアップで [いいえ(No)] を選択して、[OK] をクリックします
8. [機器(Equipment)] タブで、[設備(Equipment)] > [ラック マウント(Rack Mounts)] > [サーバ(Servers)] の順に展開して、UCS Manager に 4 つのサーバがあることを確認します。





9. サイドメニューで [サーバ(Servers)] をクリックします。[サーバ(Servers)] > [サービス プロファイル(Service Profiles)] > [root] > [サブ組織(Sub-Organizations)] > [HyperFlex-B] の順に展開し、HyperFlex クラスタ HX-Storage Cluster B に 4 つのサーバがあることを確認します。



10. [HyperFlex デモ(HyperFlex Demo)] ウィンドウ以外のすべてのウィンドウを閉じて、シナリオ 3 に進みます。





## シナリオ 3. HX クラスタのレプリケーション(クラスタ A + B)

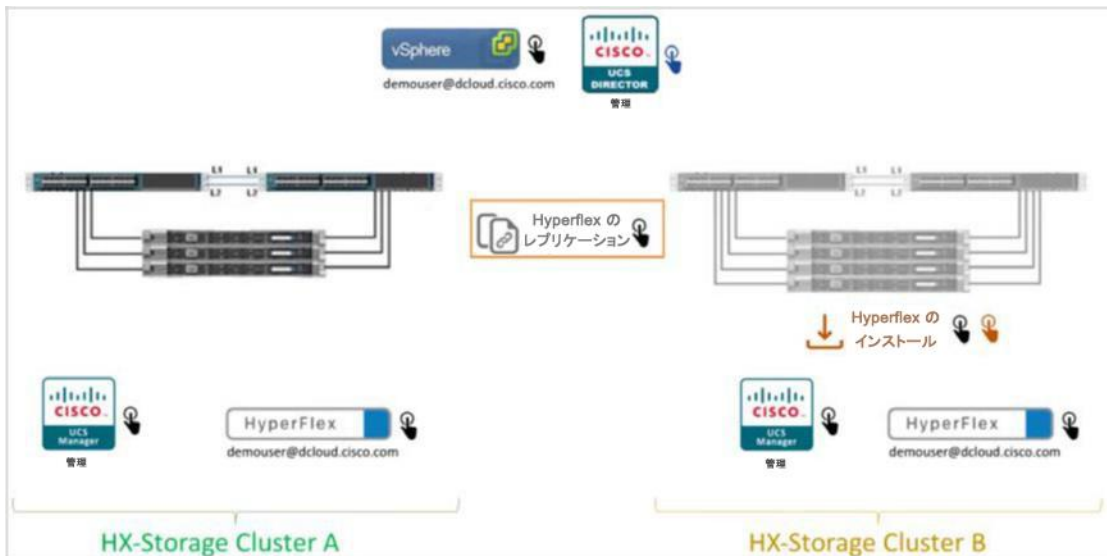
このシナリオの目的は、HX-Storage Cluster A と HX-Storage Cluster B をレプリケートすることです。

Cisco HyperFlex HX Data Platform では、ディザスタ リカバリに対応するため、仮想マシンや仮想マシン グループから他のクラスタへの WAN 経由レプリケーションもサポートしています。データ プラットフォームは、変更ブロックのトラッキングと圧縮を使用してデータ転送を最適化し、ネットワークへの影響を軽減します。HX Data Platform に組み込まれたネイティブのレプリケーション機能とスナップショット機能により、リカバリ タイム目標 (RTO) およびリカバリ ポイント目標 (RPO) が大幅に低減され、アプリケーションやデータに対する RTO が 15 分未満に短縮されています。

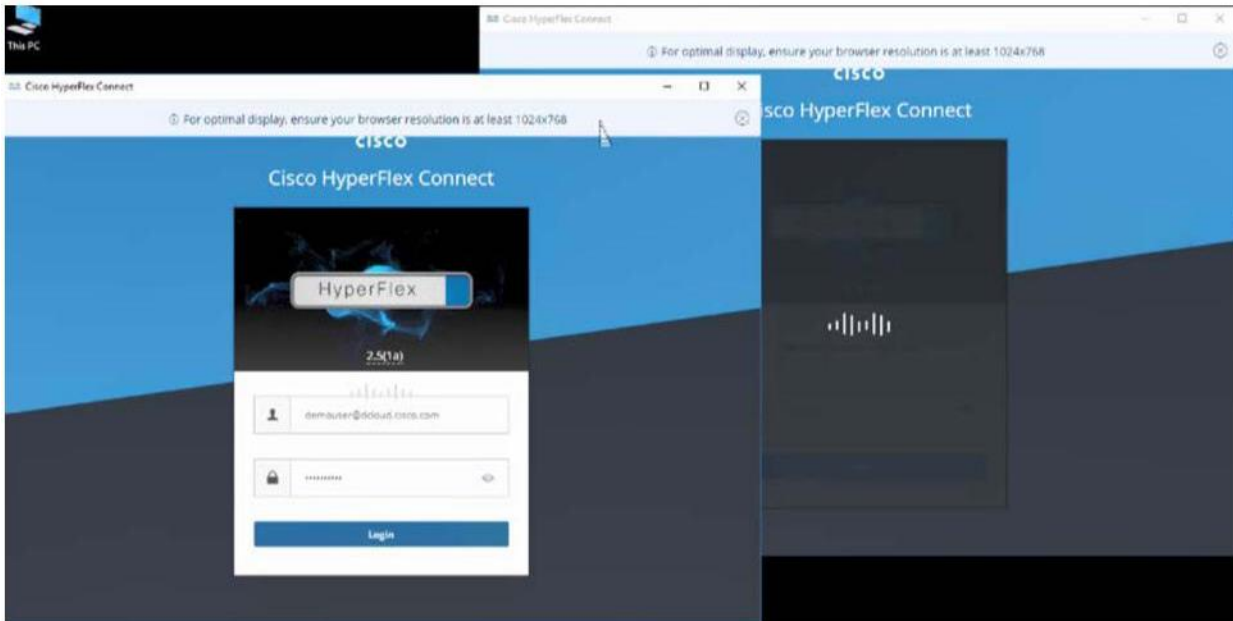
### 手順

- HyperFlex デモンストレーション インターフェイスを開いてない場合は、ワークステーション デスクトップの [HyperFlex デモ (HyperFlex Demo)] ショートカット  をダブルクリックして、HyperFlex デモンストレーション インターフェイスを開きます。

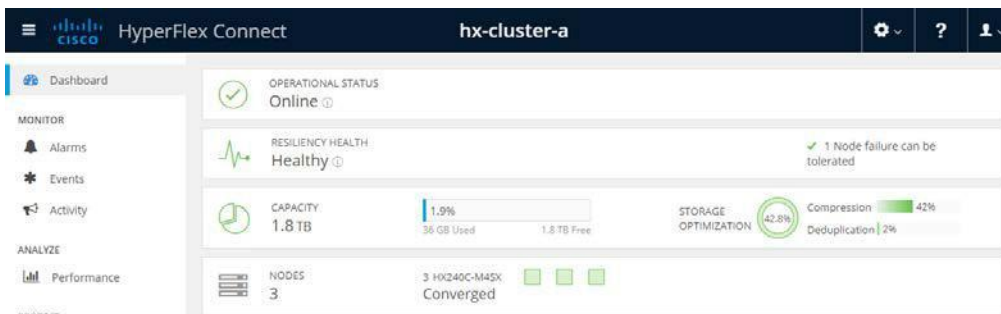
- HyperFlex トポロジ ページで、[HyperFlex のレプリケーション (HyperFlex Replication)] の横にあるポインタ  をクリックします。




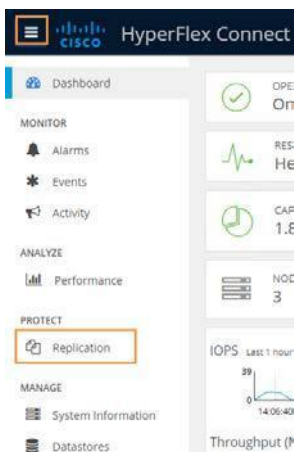
- これにより、2 つの HyperFlex Connect のインスタンスが開始されます。片方はクラスタ A 用で、もう片方はクラスタ B 用です。クラスタ A および B の [HyperFlex Connect] の [ユーザ名 (Username)] にデモンストレーション用クレデンシャルを貼り付けて、[パスワード (password)] フィールドに **C1sco12345** と入力します。[ログイン (Login)] をクリックします。



4. ダッシュボードから各クラスタの正常性を確認します。



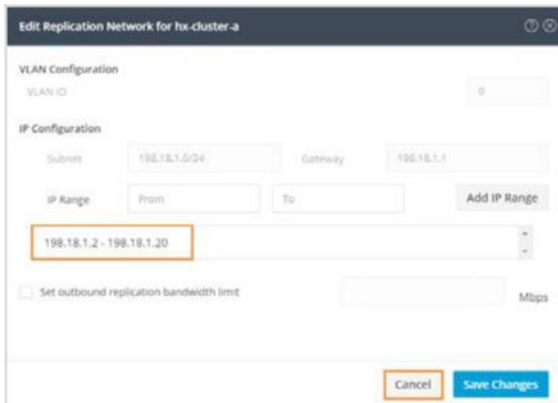
5. クラスタ A のウィンドウのメニュー アイコン  をクリックし、メニューから [レプリケーション (Replication)] を選択します。




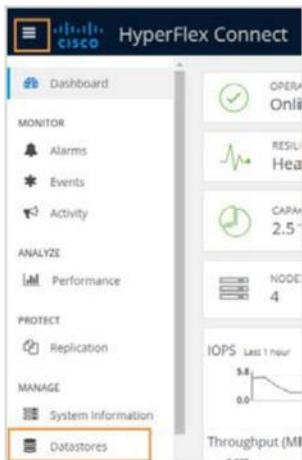
6. すでに構築されているレプリケーション ネットワークの設定を確認するには、[編集 (Edit)] をクリックします。



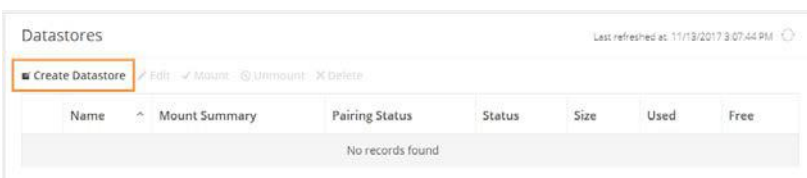
7. サブネットと IP 範囲が表示されます。
8. [キャンセル(Cancel)] をクリックして、[編集(Edit)] ウィンドウを閉じます。



9. クラスタ B のウィンドウに戻り、クラスタ B のレプリケーション ネットワークをプロビジョニングします。
10. メニュー アイコン  をクリックして、メニューから [データストア(Datastores)] を選択します。



11. [データストアの作成(Create Datastore)] をクリックします。



12. データストアに **myDS-Replication** という名前を付けて、サイズを **100 GB** に設定します。[データストアの作成(Create Datastore)] をクリックします。

13. メニュー アイコンを再度クリックして、メニューから [レプリケーション (Replication)] を選択します。

14. [設定 (Configure)] をクリックします。

15. 次のネットワークの設定に関する情報を入力します。

- [VLAN ID]: **0**
- [このレプリケーション VLAN ID をファブリック インターコネクトで設定 (推奨) (Configure this replication VLAN ID on the Fabric Interconnect (recommended))]: **オフ**
- [サブネット (Subnet)]: **198.18.1.0/24**
- [ゲートウェイ (Gateway)]: **198.18.1.1**
- [IP 範囲/開始 (IP Range/From)]: **198.18.1.21**
- [IP 範囲/終了 (IP Range/To)]: **198.18.1.49**

16. [IP 範囲の追加 (Add IP Range)] をクリックします。

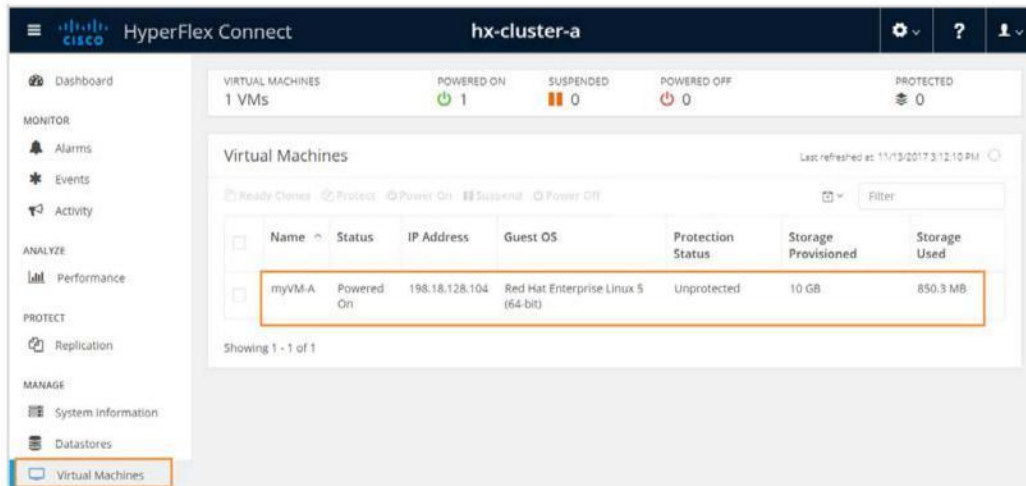
Subnet	Gateway
198.18.1.0/24	198.18.1.1

17. 下方向へスクロールして、[設定 (Configure)] をクリックします。

18. 約 1 分後に、レプリケーション ネットワークがオンラインになります。

19. **クラスター A** のウィンドウに戻ります。メニュー アイコンをクリックして、表示されたメニューから [仮想マシン (Virtual Machines)] を選択します。

20. 設定されたレプリケーションによって保護される **myVM-A** の仮想マシンが表示されます。



21. メニュー アイコンをクリックし、[レプリケーション (Replication)] を選択してレプリケーション画面に戻ります。

22. [レプリケーション ペアの作成 (Create Replication Pair)] をクリックします。

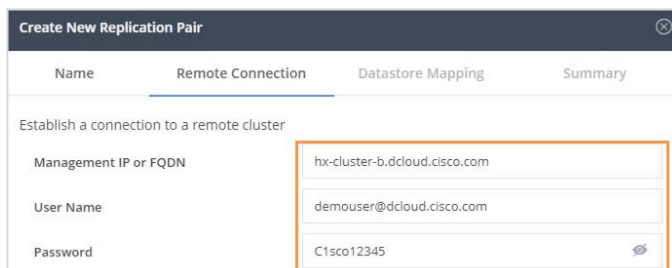


23. [レプリケーション ペア名 (Replication Pair Name)] フィールドに **dcloud-replication** と入力して、[次へ (Next)] をクリックします。

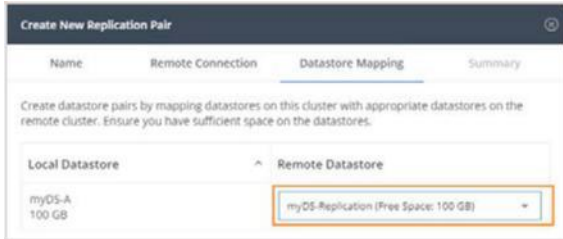


24. [リモート接続 (Remote Connection)] ウィンドウで、次の値を入力して、[ペアリング (Pair)] をクリックします。

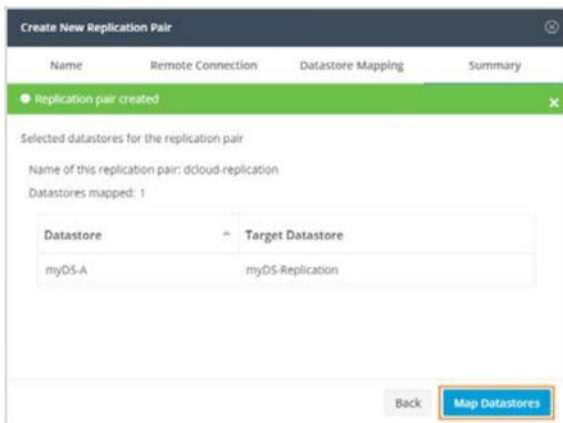
- [管理 IP または FQDN (Management IP or FQDN)]: **hx-cluster-b.dcloud.cisco.com**
- [ユーザ名 (User Name)]: **demouser@dcloud.cisco.com**
- [パスワード (Password)]: **C1sco12345**



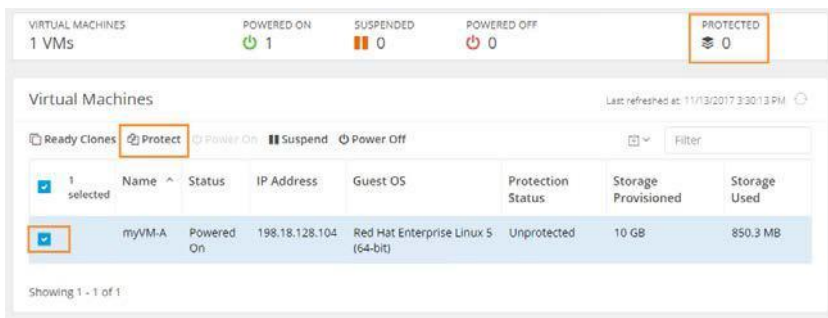
25. [データストア マッピング (Datastore Mapping)] ウィンドウで、先ほど作成した [myDS-Replication (空き容量: 100 GB) (myDS-Replication (Free Space: 100GB))] を [リモート データストア (Remote Datastore)] として選択し、[次へ (Next)] をクリックします。



26. [サマリー (Summary)] ウィンドウで、[データストアのマッピング (Map Datastores)] をクリックします。



27. メニュー アイコンをクリックし、[仮想マシン (Virtual Machines)] をクリックして仮想マシン リストに戻ります。[myVM-A] を選択すると保護されていないと表示されますが、[保護 (Protect)] オプションは存在します。VM を保護する前に、保護グループを作成する必要があります。



28. メニュー アイコンをクリックして、[レプリケーション (Replication)] をクリックします。
29. [保護グループ (Protection Groups)] タブをクリックして、[保護グループの作成 (Create Protection Group)] をクリックします。

CLUSTER REPLICATION NETWORK  
Network configured. Unused IPs: 15

Unlimited  
Maximum Bandwidth

No Data Available

Edit

PROTECTION OVERVIEW  
To protect virtual machines, go to the Virtual Machines page, select one or more virtual machines and click Protect.

0 Protection Groups

REPLICATION OVERVIEW  
0 In Progress 0 Incoming 1 Replication Pair

Replications Protected Virtual Machines Protection Groups Replication Pairs  
Last refreshed at: 11/13/2017 9:32:10 PM

Create Protection Group Edit Schedule Delete

Protection Group	Protection Status	Last Protection Time	Direction	Interval
No records found				

30. [保護グループの作成(Create Protection Group)]のフィールドに次のように入力します。

- [保護グループ名(Protection Group Name)]: **dcloud-15m**
- [このグループの仮想マシンの保護間隔(Protect virtual machines in this group every)]: [15分(15 minutes)]
- [仮想マシンの保護をすぐ開始(Start protecting the virtual machines immediately)]: **選択**

31. [保護グループの作成(Create Protection Group)]をクリックします。

Create Protection Group

Protection Group Name: dcloud-15m

Protect virtual machines in this group every: 15 minutes

Start protecting the virtual machines immediately (selected)

Start protecting the virtual machines at: 00:00

Cluster time zone: UTC +00:00 UTC

Current time on cluster: 3:33:01 PM

Use VMware Tools to quiesce the virtual machine (unchecked)

Cancel Create Protection Group

32. 保護グループが作成されたことを確認します。

CLUSTER REPLICATION NETWORK  
Network configured. Unused IPs: 15

Unlimited  
Maximum Bandwidth

No Data Available

Edit

PROTECTION OVERVIEW  
To protect virtual machines, go to the Virtual Machines page, select one or more virtual machines and click Protect.

1 Protection Group

REPLICATION OVERVIEW  
0 In Progress 0 Incoming 1 Replication Pair

Replications Protected Virtual Machines Protection Groups Replication Pairs  
Last refreshed at: 11/13/2017 3:34:01 PM

Create Protection Group Edit Schedule Delete

Protection Group	Protection Status	Last Protection Time	Direction	Interval
> dcloud-15m	0 VM Active		Outgoing	Every 15 minutes

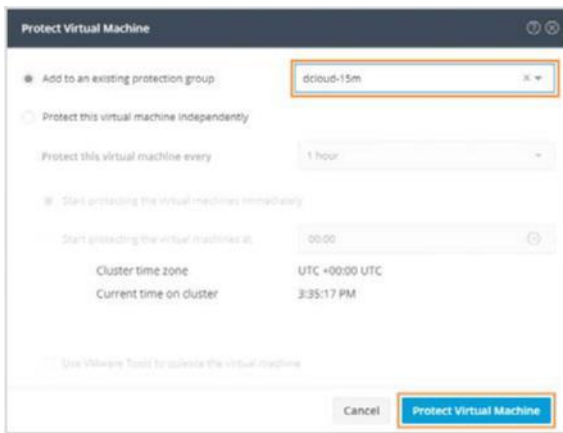
Showing 1 - 1 of 1

33. メニュー アイコンをクリックして、[仮想マシン (Virtual Machines)] をクリックします。

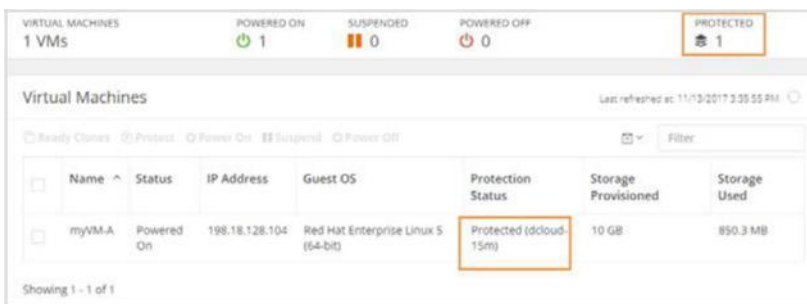
34. [myVM-A] を選択して、[保護 (Protect)] をクリックします。



35. ドロップダウンから新しく作成した [dcloud-15m] を選択して、既存の保護グループに VM を追加します。[仮想マシンの保護 (Protect Virtual Machine)] をクリックします。



36. VM が保護されたことを確認します。





37. HyperFlex デモ ウィンドウ以外のすべてのウィンドウを閉じます。

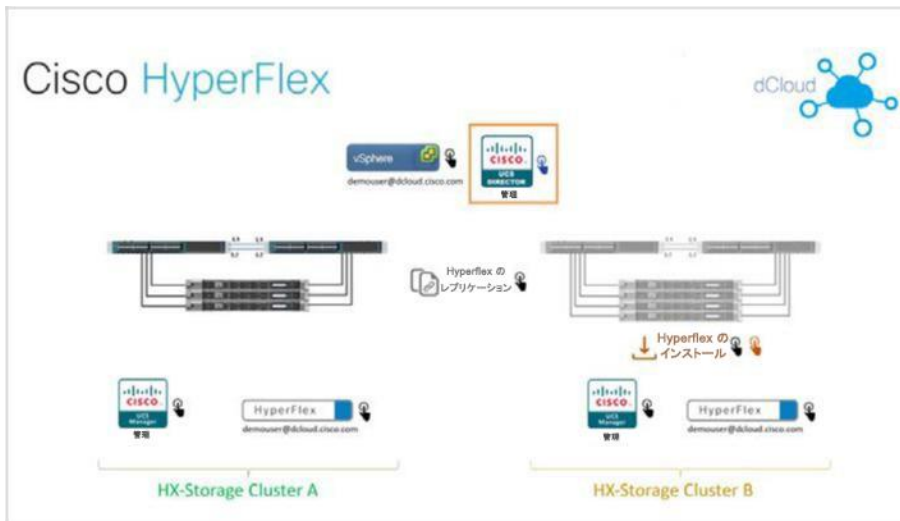


## シナリオ 4. HyperFlex との UCS Director の統合 (クラスター A)

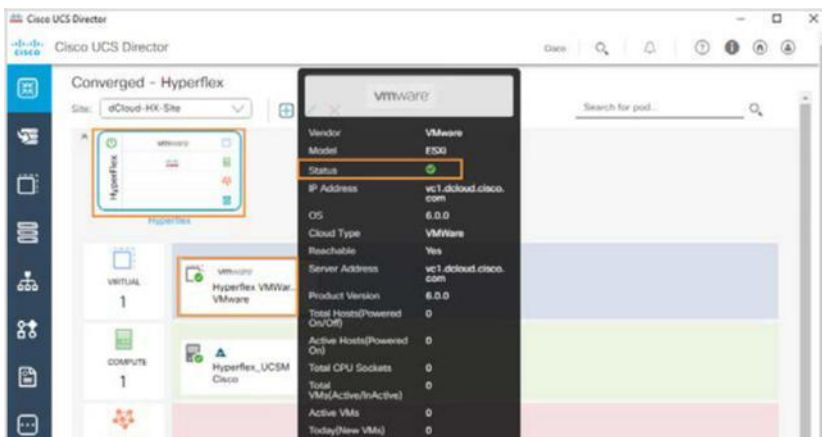
このシナリオの目的は、UCS Director 統合をクラスター(この場合は HX-Storage Cluster A)に追加することです。

### 手順

1. ワークステーション デスクトップの [HyperFlex デモンストレーション (HyperFlex Demo)] ショートカット  をダブルクリックして、HyperFlex デモンストレーション インターフェイスを開きます。
2. HyperFlex デモンストレーション インターフェイス ページで、[UCS Director] アイコンの横にあるポインタ  をクリックします。

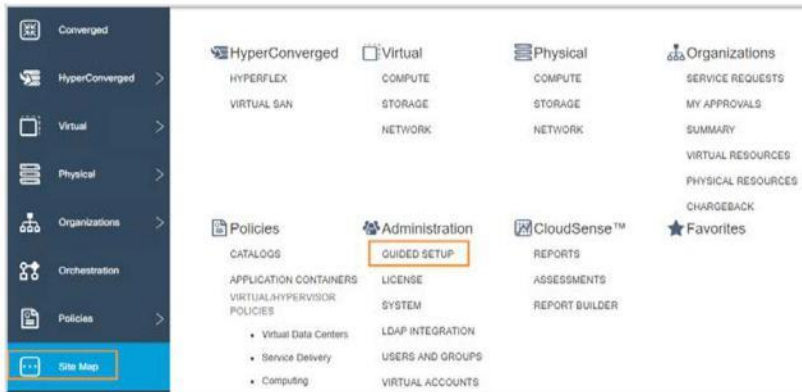


3. [UCS Director] の [ユーザ名 (Username)] フィールドにデモンストレーション用クレデンシャルを貼り付けて、[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、ログインします。
4. [HyperFlex] をクリックすると、UCS Director で管理されているオブジェクトが表示されます。
5. [HyperFlex VMware] と [HyperFlex\_UCSM] に順にマウス オーバーすると、接続設定が完了していることを確認できます。

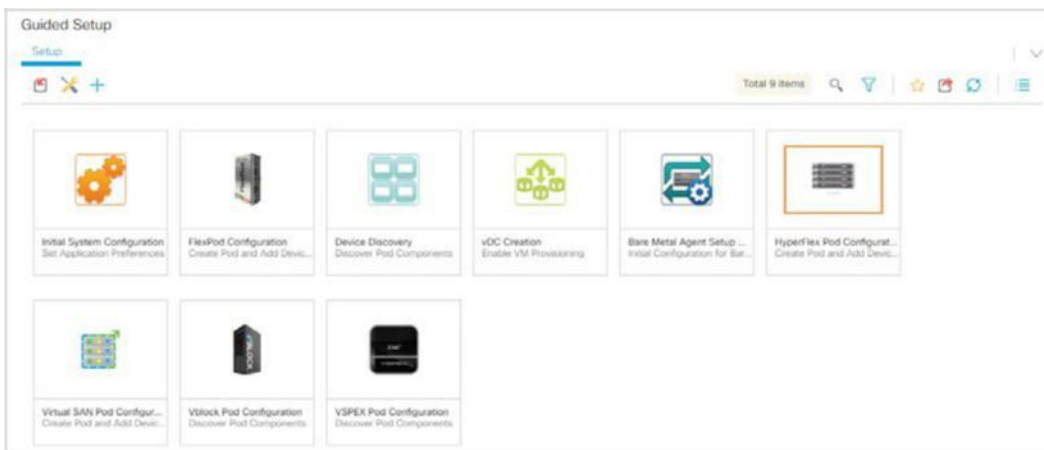


6. サイドメニューの [サイト マップ (Site Map)] をクリックして、表示されたページで [管理 (Administration)] > [ガイド付きセットアップ (Guided Setup)] の順にクリックします。

注: 画面の解像度に応じて、サイドメニューに [管理 (Administration)] オプションが表示されます。



7. [HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] をダブルクリックします。



8. [新しいセッションの開始 (Start a New Session)] をクリックします。



9. [HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードで、変更を加えずに [次へ (Next)] をクリックして [概要 (Overview)] 画面を移動します。
10. [ポッド (Pod)] 画面で、[ポッド (Pod)] ドロップダウンから [Hyperflex] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
11. [スキップ (Skip)] を 2 回クリックして VMware と UCS Manager の設定をスキップします。
12. [Cisco HyperFlex] 画面で、次の図に示された値を入力して、[次へ (Next)] をクリックします。

Add new HyperFlex account to the Pod.

Use Existing Account

Accounts

Choose an existing account or choose 'Select' to create a new account

Create New Account

Account Name\*

Cluster Management IP Address\*

Use Credential Policy

User ID\*  **C1sco12345**

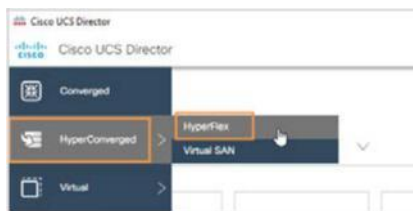
Password\*

Https Port\*

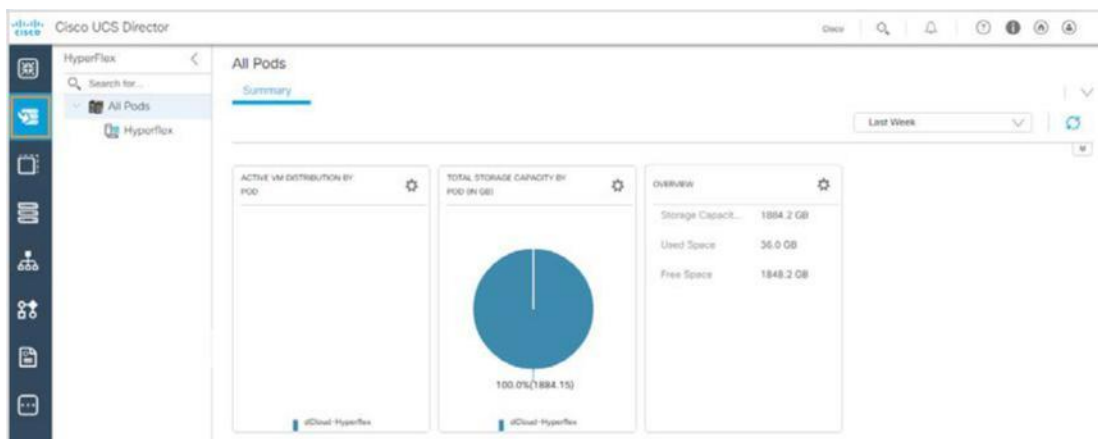
Port\*

13. [閉じる (Close)] をクリックして、設定ウィザードを閉じます。

14. サイドメニューで、[HyperConverged] > [HyperFlex] の順にクリックします。



15. [サマリー (Summary)] タブには、すべてのクラスタに関する利用可能な情報が表示されます。この場合、クラスタ A が UCS Director に表示される唯一のクラスタです。



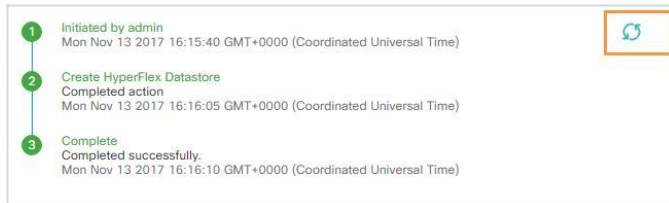
16. [HyperFlex] をクリックしてクラスタの詳細にドリル ダウンすると、希望の情報を表示できます。
17. [データストア (Datastores)] タブで、[+] をクリックしてクラスタが利用可能なデータストアを作成します。



18. [データストア名 (Datastore Name)] フィールドに **myUCSD-DS** と入力し、[サイズ (Size)] を **100 GB** に設定します。



19. [送信 (Submit)] をクリックします。
20. 画面の下部に [詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] ボタンが表示されたらクリックします。
21. プロセスが完了すると画面が更新されます。プロセスは 1 分以内に完了します。



22. 必要に応じて、[ログ (Log)] タブでプロセスの詳細を確認します。



23. HyperFlex トポロジ ページで、HX-Storage Cluster A の [HyperFlex] の横にあるポインタ アイコンをクリックして、データストアが作成されていることを確認します。



24. ログインが必要な場合は、クレデンシャルを [ユーザ名 (Username)] フィールドに貼り付けて、[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力してログインします。
25. メニュー アイコンをクリックして、表示されたメニューから [データストア (Datastores)] を選択します。
26. 新しいデータストアがクラスター A で使用できる状態になっていることを確認します。

Name	Mount Summary	Pairing Status	Status	Size	Used	Free
myDS-A	MOUNTED	myDS-Replication	Normal	100 GB	843 MB	99 GB
myUCSD-DS	MOUNTED	Unpaired	Normal	100 GB	0 B	100 GB

27. HyperFlex デモ ウィンドウ以外のすべてのウィンドウを閉じます。

## シナリオ 5. HyperFlex Connect による操作(クラスタ A または B)

このシナリオでは、HyperFlex Connect の操作機能について学びます。


### 手順

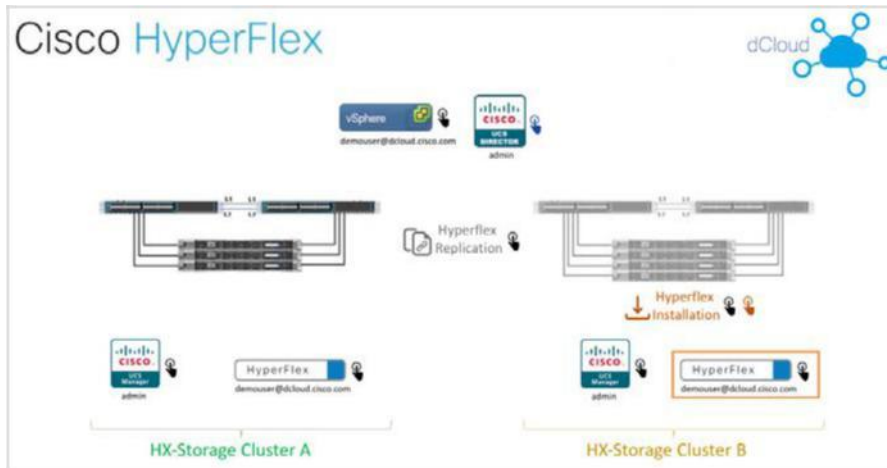
#### データストアの作成

1. HyperFlex デモをまだ開いていない場合は、ワークステーション デスクトップの [HyperFlex デモ(HyperFlex Demo)] ショートカット



をダブルクリックします。

2. HyperFlex トポロジ ページで、**HX-Storage Cluster B** の [HyperFlex] の横にあるポインタ  をクリックします。



3. クラスタ B の [HyperFlex Connect] の [ユーザ名 (Username)] フィールドにデモンストレーション用クレデンシャルを貼り付け、[パスワード (Password)] フィールドに **C1sco12345** と入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。
4. サイド メニューで [データストア (Datastores)] をクリックします。
5. [データストアの作成 (Create Datastore)] をクリックして、データストアを作成します。


Datastores						
Name	Mount Summary	Pairing Status	Status	Size	Used	Free
myDS-Replication	MOUNTED	myDS-A	Normal	100 GB	0 B	100 GB

6. [データストア名 (Datastore Name)] フィールドに **myDS-B**、[サイズ (Size)] フィールドに **100** と入力し、[データストアの作成 (Create Datastore)] をクリックします。



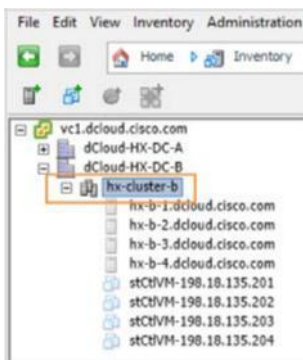
7. 数秒以内に、データストアが正常に作成されたことが表示されます。

### 新しいデータストアへ VM を展開する

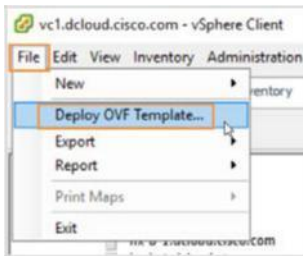
1. (HyperFlex トポロジ ページではなく) ワークステーション デスクトップのタスク バーで、[vCenter vSphere] アイコン  をダブルクリックして、vSphere を開きます。
2. [Windows セッションのクレデンシャルを使用する (Use Windows session credentials)] チェックボックスをクリックして、ログインします。



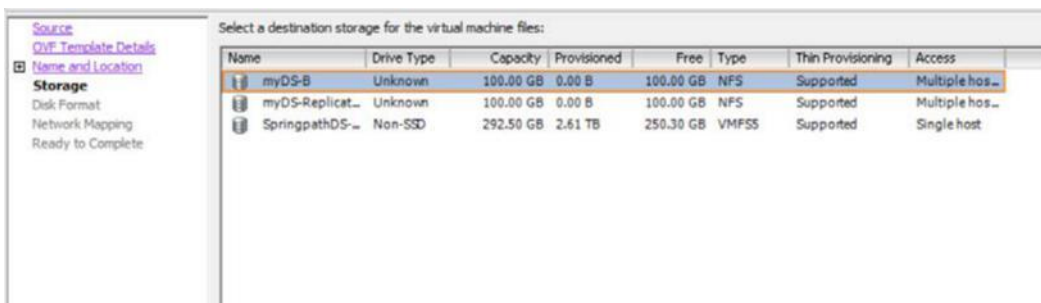
3. [vc1.dcloud.cisco.com] > [dCloud-HX-DC-B] > [hx-cluster-b] の順に展開します。[hx-cluster-b] をクリックします。



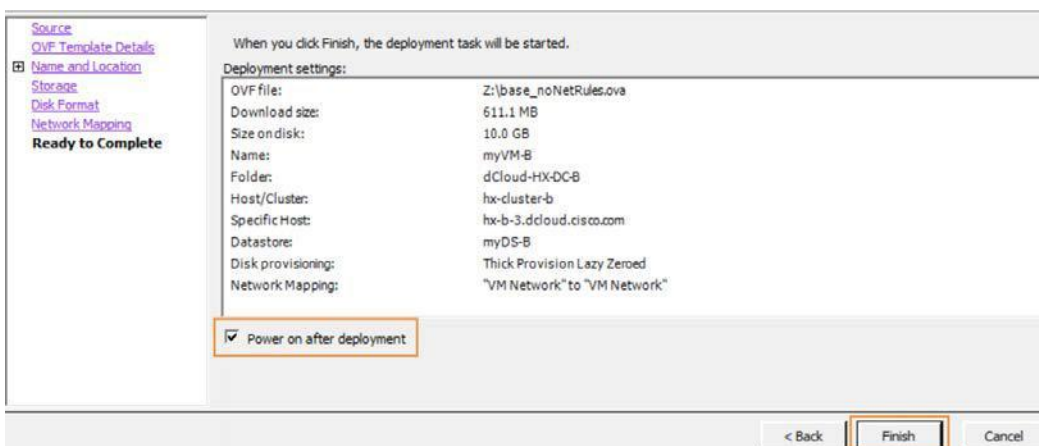
4. トップ メニューから、[ファイル (File)] > [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] の順にクリックします。



5. [次へ (Next)] をクリックして、デモンストレーション ワークステーションに最初から組み込まれているデフォルトの [ソース (Source)] ファイルから展開します。
6. [OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。変更はできません。
7. 展開する新しい VM に名前を付けます。この例では、**myVM-B** にします。[次へ (Next)] をクリックします。
8. [特定のホスト (Specific Host)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。
9. 前の手順で作成したデータストアを選択します。この例では、**myDS-B** になります。[次へ (Next)] をクリックします。



10. [準備完了 (Ready to Complete)] 画面で [次へ (Next)] をクリックします。[展開後に起動 (Power on after deployment)] チェックボックスにチェックを入れ、[終了 (Finish)] をクリックします。



11. VM が作成・起動されるまで待ちます。これには約 5 分かかります。





12. [データストア (Datastores)] ウィンドウで開いたままになっている、クラスタ B の **HyperFlex Connect** に戻ります。統計情報を表示するには、[myDS-B] をクリックします。

Name	Mount Summary	Pairing Status	Status	Size	Used	Free
myDS-B	MOUNTED	Unpaired	Normal	100 GB	0 B	100 GB
myDS-Replication	MOUNTED	myDS-A	Normal	100 GB	0 B	100 GB

### レディ クローンの作成

1. クラスタ B の [HyperFlex Connect] のサイドメニューで、[仮想マシン (Virtual Machines)] をクリックします。
2. [myVM-B] を選択して、[レディ クローン (Ready Clones)] をクリックします。

Name	Status	IP Address	Guest OS	Protection Status	Storage Provisioned	Storage Used
myVM-B	Powered On	198.18.128.100	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB

3. 次のように値を入力します。

- [クローン数 (Number of clones)]: 10
- [VM 名のプレフィックス (VM Name Prefix)]: **myReadyClone-**
- [開始クローン番号 (Starting clone number)]: 1
- [増分 (Increment by)]: 1
- [複製後に VM を起動 (Power on VMs after cloning)]: **オン**

Ready Clones - myVM-8

Number of clones  
10

Customization Specification Resource Pool

VM Name Prefix Starting clone number Increment clone numbers by

myReadyClone- 1 1

Use same name for Guest Name

Preview

Clone Name	Guest Name
myReadyClone-8	myReadyClone-8
myReadyClone-9	myReadyClone-9
myReadyClone-10	myReadyClone-10

4. [複製 (Clone)] をクリックします。
5. VM がオンラインになったら、[仮想マシン (Virtual Machines)] 画面が更新されます。これには約 2 分かかります。

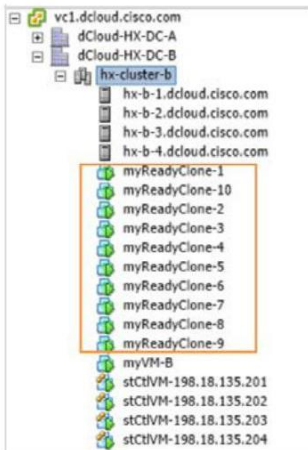
VIRTUAL MACHINES  
12 VMs

POWERED ON 11 SUSPENDED 0 POWERED OFF 1

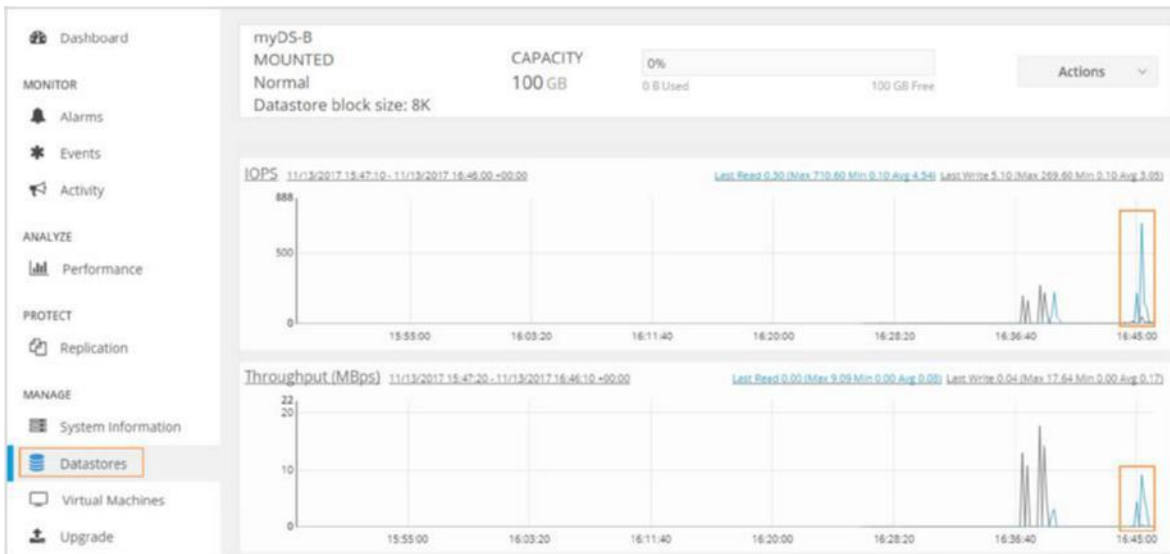
Virtual Machines  
Last refreshed at: 07/23/2017 11:23:57 PM

Name	Status	IP Address	Guest OS	Protection Status	Storage Provisioned	Storage Used
myReadyClone-1	Powered On		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	N/A	10 GB	10 GB
myReadyClone-2	Powered On		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	N/A	10 GB	10 GB
myReadyClone-3	Powered On		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	N/A	10 GB	10 GB
myReadyClone-4	Powered On		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	N/A	10 GB	10 GB
myReadyClone-5	Powered On		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	N/A	10 GB	10 GB

6. vSphere に戻ると、レディ クローンが作成されています。

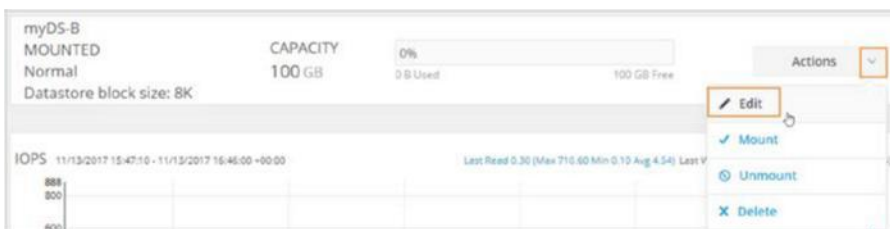


7. **HyperFlex Connect** に戻り、サイドメニューの [データストア(Datastores)] をクリックします。[myDS-B] をクリックします。
8. 新しい VM がオンラインになったときに発生したスループットと IOPS のスパイクが表示されます。



## データストアの編集

1. [操作(Actions)] メニューをクリックし、myDS-B データストアに実行できる操作を表示します。
2. [編集(Edit)] をクリックして、データストアを編集できる画面を表示します。



3. データストアの [サイズ (Size)] を **50** に変更して、[データストアの編集 (Edit Datastore)] をクリックします。

**Edit Datastore**

Datastore Name  
myDS-B

Size  
50 GB

Cancel Edit Datastore

4. この変更はほとんど即座に有効になります。

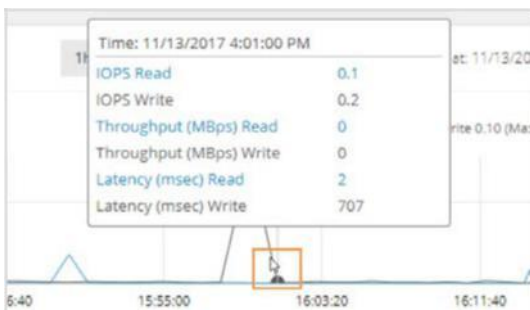


## パフォーマンス測定指標の取得

1. サイドメニューで、[パフォーマンス (Performance)] をクリックします。
2. 期間を選択します。



3. 期間を変更した結果、グラフが変更されることを確認します。
4. グラフにマウス オーバーすると、ポップアップに詳細情報が表示されます。



## ロールベース アクセス コントロール (RBAC)

このセクションの目的は、**HyperFlex 2.5 HX Data Platform** の新機能であるロールベース アクセスのデモンストレーションを行うことです。

1. HyperFlex デモ ページに戻り、**クラスタ A** の [HyperFlex] の横にあるポインタ アイコンをクリックします。
2. 認証ウィンドウでログイン クレデンシャル (`readonly@dcloud.cisco.com/C1sco12345`) を編集します (貼り付けしないでください)。[ログイン (Login)] をクリックしてログインし、読み取り専用アクセスのデモンストレーションを行います。
3. サイド メニューの [データストア (Datastores)] をクリックして、読み取り専用ユーザがデータストアを作成・変更できないことを確認します。

Name	Mount Summary	Pairing Status	Status	Size	Used	Free
myDS-A	MOUNTED	myDS-Replication	Normal	100 GB	843 MB	99 GB
myUCSD-DS	MOUNTED	Unpaired	Normal	100 GB	0 B	100 GB

Showing 1 - 2 of 2

4. サイド メニューの [仮想マシン (Virtual Machines)] をクリックして、読み取り専用ユーザが仮想マシンの追加、保護、またはレディ クローンへのアクセスができないことを確認します。

Name	Status	IP Address	Guest OS	Protection Status	Storage Provisioned	Storage Used
myVM-A	Powered On	198.18.128.104	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Protected (dcloud-15m)	10 GB	850.3 MB

Showing 1 - 1 of 1

5. HyperFlex デモ ウィンドウ以外のすべてのウィンドウを閉じます。

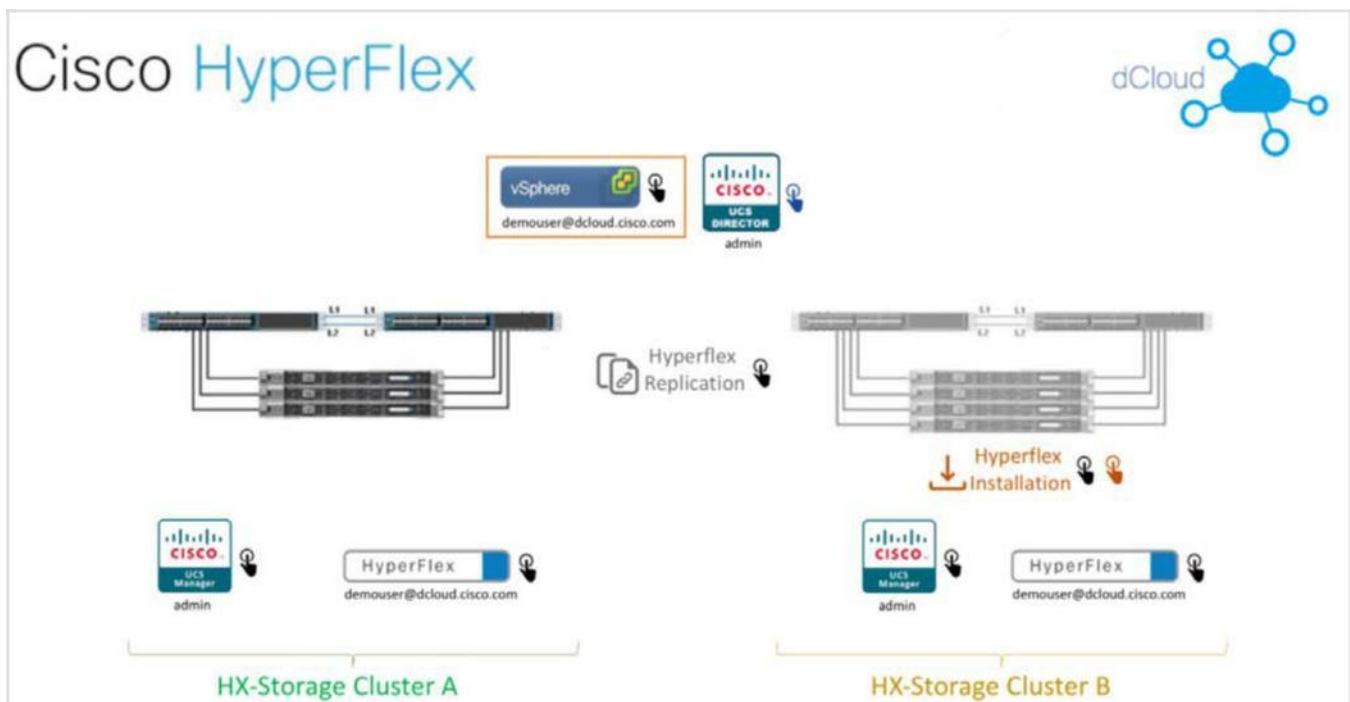
## シナリオ 6. HyperFlex Plugin for vSphere による操作 (クラスター A または B)

このシナリオの目的は、シナリオ 6 と同じ操作を、vSphere プラグインを使用して実行する方法を示すことです。

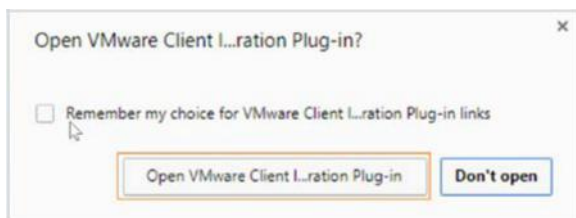
### 手順

#### データストアの作成

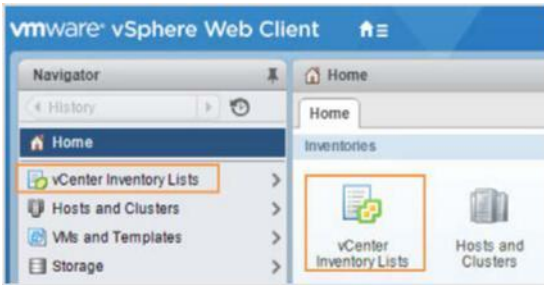
1. ワークステーション デスクトップの [HyperFlex] ショートカットをダブルクリックして、HyperFlex 統合ページを開きます。
2. [vSphere] の横にあるポインタ アイコンをクリックして、VMware vSphere を開きます。



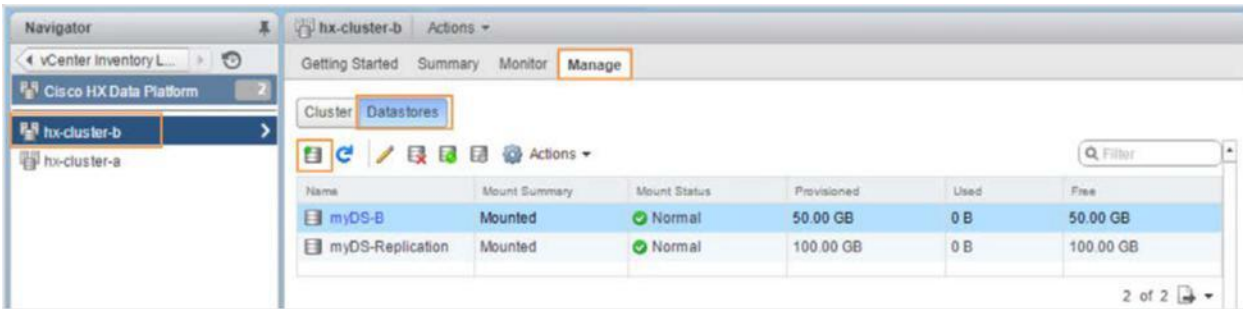
3. [Windows セッション認証を使用する (Use Windows session authentication)] チェックボックスをオンにして、ログインします。
4. [VMware クライアント統合プラグインを開く (Open VMware Client Integration Plug-in)] メッセージが表示されたら、[選択内容を記憶する (Remember my choice)] チェックボックスをオンにして、[VMware クライアント統合プラグインを開く (Open VMware Client Integration Plug-in)] をクリックします。



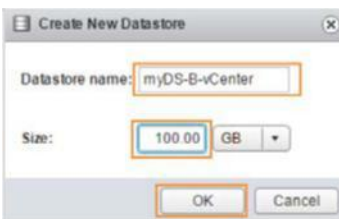
5. [vCenter Inventory リスト (vCenter Inventory Lists)] をクリックします。



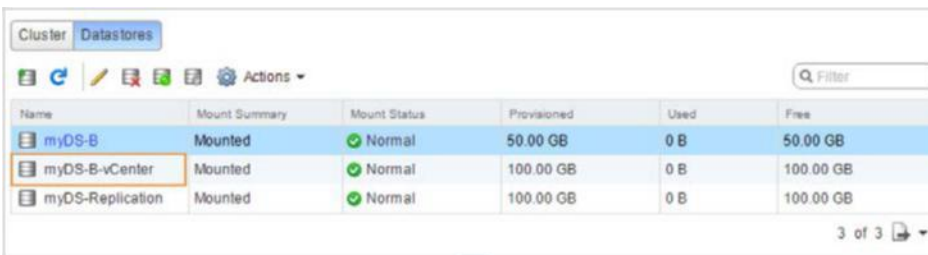
6. サイドメニューを下にスクロールして、[Cisco HX Data Platform] をクリックします。
7. [hx-cluster-b] をクリックします。
8. [管理(Manage)] タブをクリックして、[データストア(Datastores)] ボタンをクリックします。
9. [データストアの作成(Create Datastore)] アイコンをクリックします。



10. 新しいデータストアに **myDS-B-vCenter** という名前を付けて、サイズを **100 GB** に設定し、[OK] をクリックします。




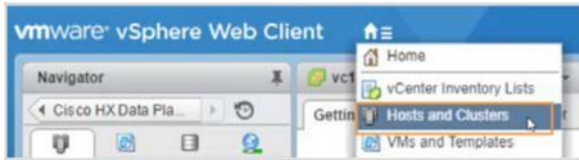
11. 新しいデータストアが作成されるまで数秒待ちます。



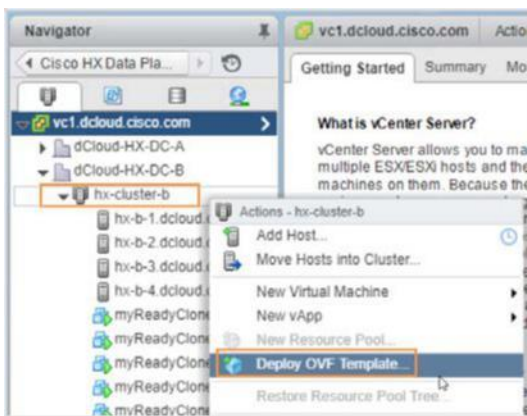


## 新しいデータストアへ VM を展開する

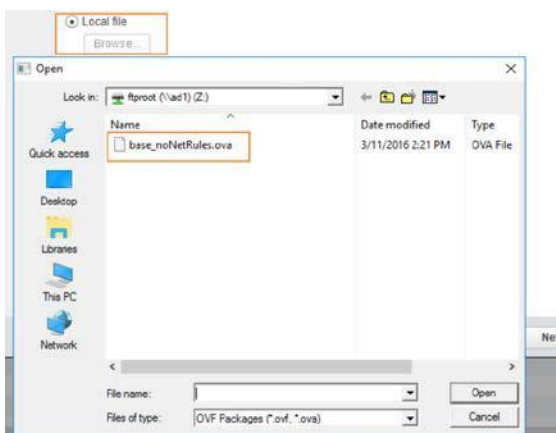
1. [ホーム(Home)] ボタン  をクリックして、ドロップダウン メニューから [ホストおよびクラスタ(Hosts and Clusters)] を選択します。



2. [vc1.dcloud.cisco.com] > [dCloud-HX-DC-B] の順に展開して、[hx-cluster-b] を右クリックします。表示されるメニューから [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] を選択します。

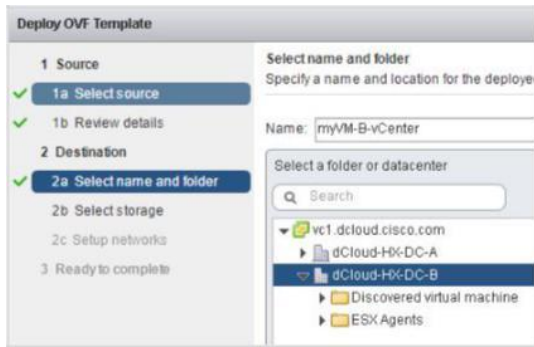


3. 表示される [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] ウィザードで、[ローカルファイル (Local File)] > [参照 (Browse)] の順にクリックして VM のテンプレート ソースとしてローカル ファイルを選択します。エクスプローラ ウィンドウがポップアップしたら、**base\_noNetRules.ova** をダブルクリックして選択します。

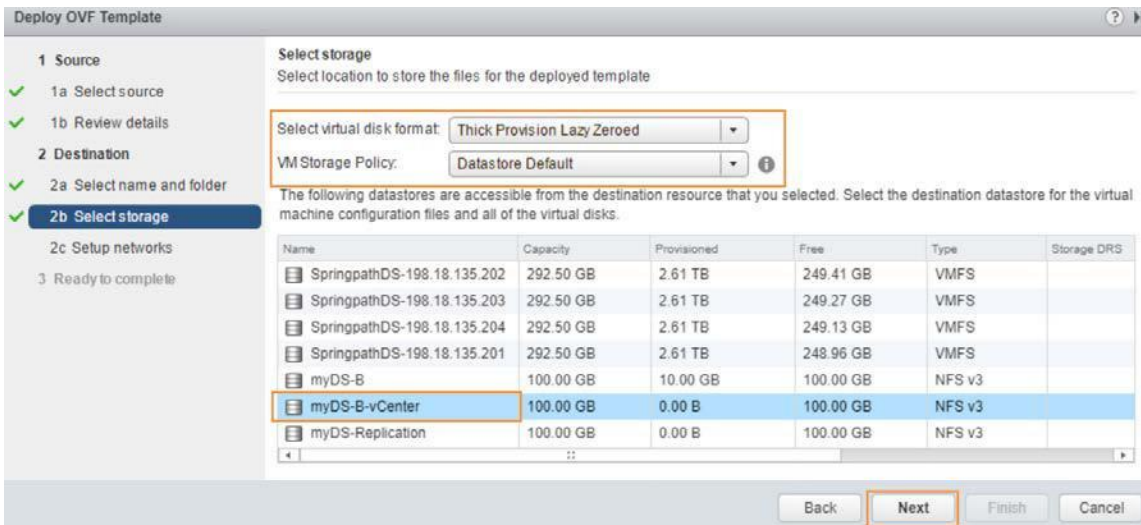


4. [次へ (Next)] をクリックし、再度 [次へ (Next)] をクリックすると、[2a. 名前とフォルダの選択 (2a. Select name and folder)] 画面が表示されます。
5. [名前 (Name)] フィールドで **myVM-B-vCenter** と入力し、新しい VM の場所として **dCloud-HX-DC-B** を選択します。

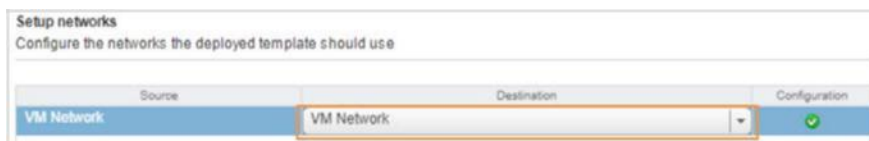




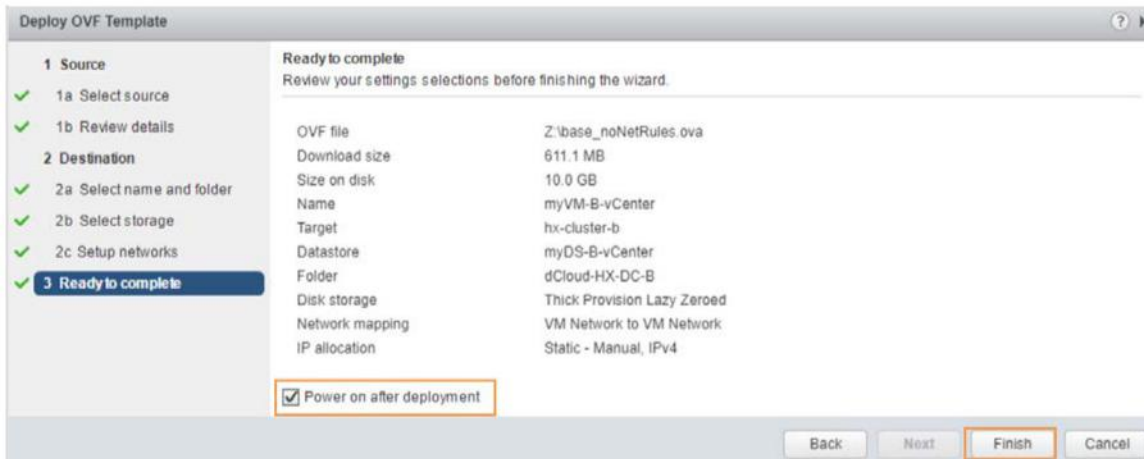
6. [次へ (Next)] をクリックします。
7. [ストレージの選択 (Select storage)] 画面で、必要に応じてスクロールして新しく作成された **myDS-B-vCenter** データストアを探し、これをクリックして選択します。
8. [仮想ディスクフォーマットの選択 (Select virtual disk format)] ドロップダウン リストから [シックプロビジョン (Lazy-Zeroed) (Thick Provision Lazy-Zeroed)] を選択します。
9. [VM ストレージポリシー (VM Storage Policy)] ドロップダウンから [データストアデフォルト (Datastore Default)] を選択します。
10. [次へ (Next)] をクリックします。



11. [2c. ネットワークの設定 (2c. Setup networks screen)] 画面で、ドロップダウン リストから [VM ネットワーク (VM Network)] が選択されていることを確認します。



12. [次へ (Next)] をクリックして [準備完了 (Ready to complete)] 画面に進み、情報を確認します。
13. [展開後に電源をオンにする (Power on after deployment)] チェックボックスをオンにします。

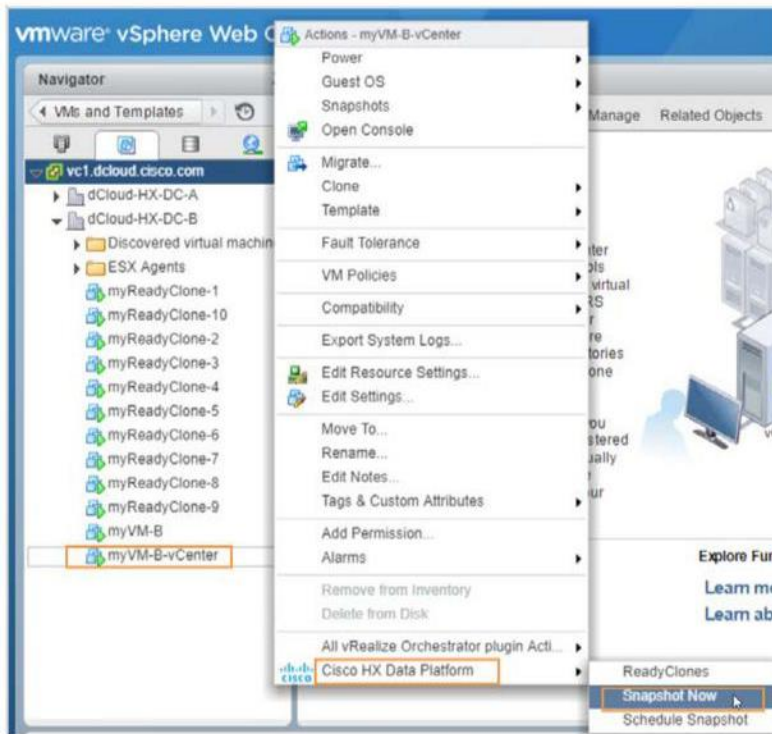


14. [完了 (Finish)] をクリックします。
15. 新しく作成された VM が vSphere でオンラインになっていることを確認します。
16. **hx-cluster-b** の [HyperFlex Connect] ウィンドウに戻り、左側のメニューから [仮想マシン (Virtual Machines)] を選択します。  
**myVM-B-vCenter** がクラスタのメンバーになっていることを確認します。

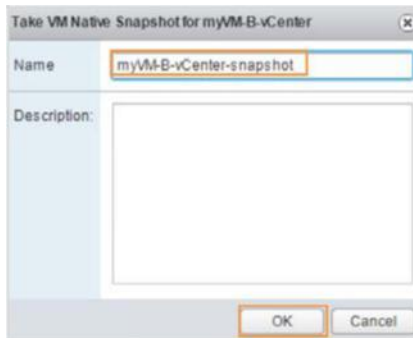
VM Name	Power State	IP Address	OS	Protection	RAM	Storage
myReadyClone-4	Powered On	198.18.128.110	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-5	Powered On	198.18.128.106	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-6	Powered On	198.18.128.109	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-7	Powered On	198.18.128.107	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-8	Powered On	198.18.128.105	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-9	Powered On	198.18.128.108	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myReadyClone-10	Powered On	198.18.128.101	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10 GB	10 GB
myVM-B	Powered On	198.18.128.100	Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	20 GB	10 GB
myVM-B-vCenter	Powered Off		Red Hat Enterprise Linux 5 (64-bit)	Unprotected	10.6 GB	10 GB

## スナップショットの作成

1. vSphere ウィンドウで、[ホーム (Home)] ボタンをクリックし、ホーム ページから [VM およびテンプレート (VMs and Templates)] を選択します。
2. [vc1.dcloud.cisco.com] > [dCloud-HX-DC-B] の順に展開し、新しく作成した **myVM-B-vCenter** を右クリックします。
3. メニューから [Cisco HX データプラットフォーム (Cisco HX Data Platform)] > [今すぐスナップショットを作成 (Snapshot Now)] の順に選択します。



4. **myVM-B-vCenter-snapshot** を名前として入力し、[OK] をクリックします。

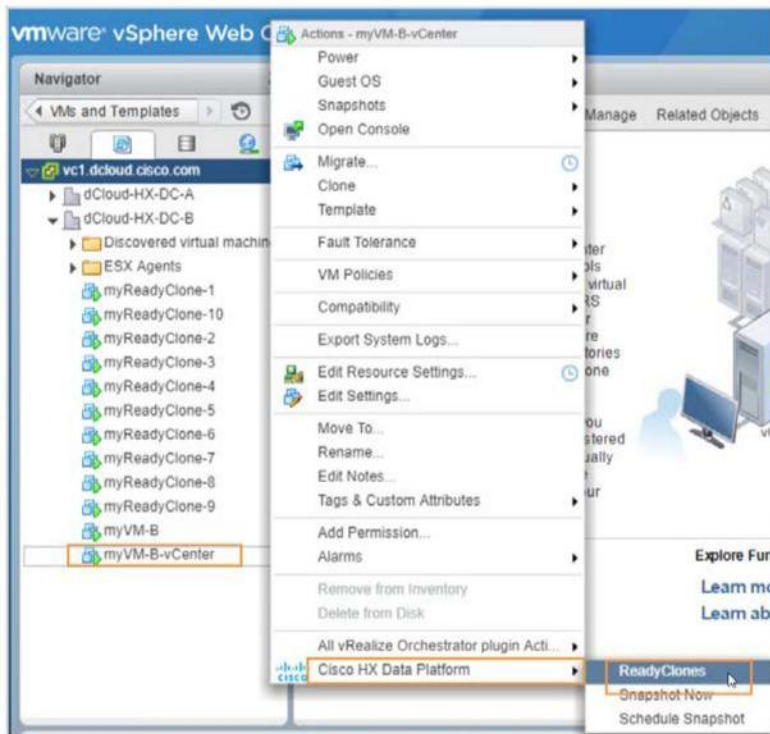


5. [最近のタスク(Recent Tasks)] バーに、スナップショット タスクの完了が表示されます。

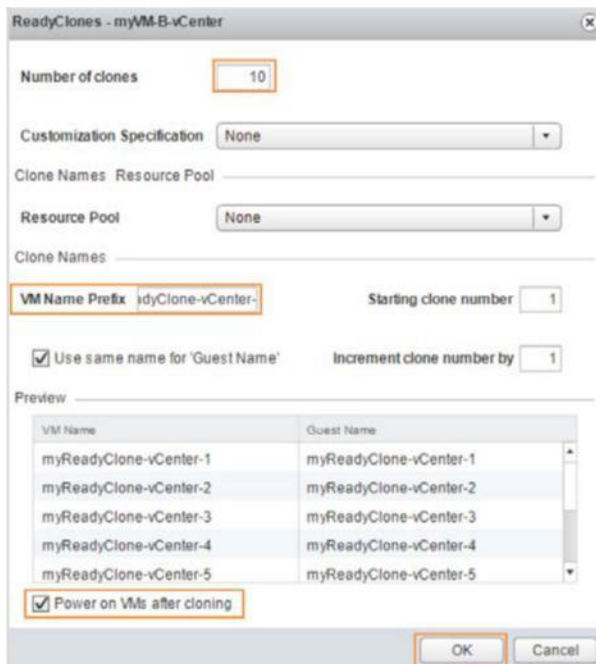
Task Name	Target	Status	Initiator	Queued For	Start Time	Completion Time	Server
Create virtual machine native snapshot	myVM-B-vCenter	✓ Completed	DCLLOUD\demouser	82 ms	11/13/2017 5:28:56 ...	11/13/2017 5:29:37 ...	vc1.dcloud.cisco.com
Deploy OVF template	myVM-B-vCenter	✓ Completed	DCLLOUD\demouser	8 ms	11/13/2017 5:21:17 ...	11/13/2017 5:23:14 ...	vc1.dcloud.cisco.com
Initialize OVF deployment	hx-cluster-b	✓ Completed	demouser@DCLOU...	0 ms	11/13/2017 5:21:17 ...	11/13/2017 5:21:23 ...	vc1.dcloud.cisco.com

## レディクローンの作成

1. 「**myVM-B-vCenter**」を右クリックし、メニューから [Cisco HX データプラットフォーム (Cisco HX Data Platform)] > [ReadyClones] の順に選択します。



2. [クローン数 (Number of clones)] フィールドで、**10** と入力します。
3. [VM 名のプレフィックス (VM Name Prefix)] フィールドで、**myReadyClone-vCenter-** と入力します。
4. [クローンの作成後に仮想マシンの電源をオンにする (Power on VMs after cloning)] をクリックし、[OK] をクリックします。




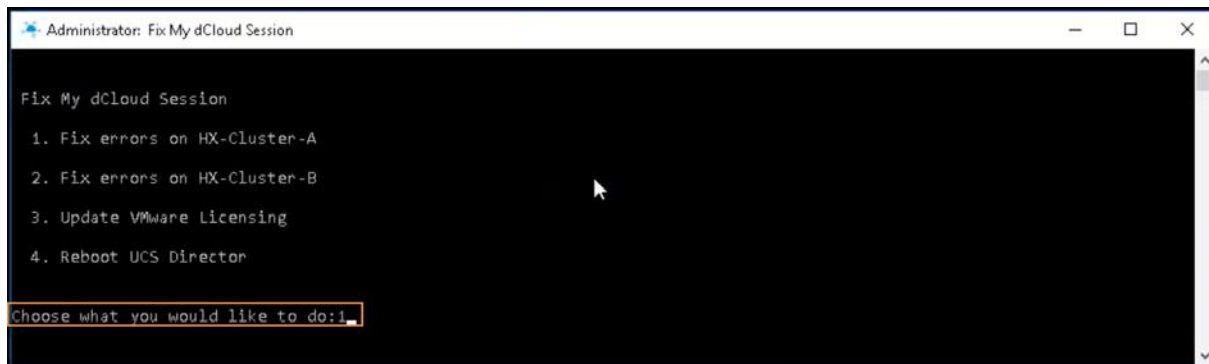
5. レディクローン VM がオンライン状態であることを確認します。

## 付録 A. マイデモの修正

デモの HyperFlex クラスタでエラーが表示される場合、またはクラスタで vSphere のエラーが表示される場合は、ESXi ホストで発生している問題を修復するスクリプトを実行する必要がある場合があります。



1. **WKST1** デスクトップで、[マイデモの修正 (Fix My Demo)]  アイコンをクリックします。
2. デモの問題に関連するオプションを選択し、[希望の操作を選択してください: (Choose what you would like to do:)] プロンプトで、該当の番号を入力します。たとえば、**HX-Cluster-A** でエラーが表示されている場合、番号 **1** を選択して Enter を押します。



3. スクリプトが完了するまで待機します。クラスタが完全に起動するまでに、約 5 分ほどかかる場合があります。
4. HyperFlex Connect でクラスタのステータスをチェックして、完全にオンラインであることを確認します。



©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2018年2月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先